

令 和 3 年 度

社会福祉法人東京かたばみ会

事 業 報 告

社会福祉法人東京かたばみ会

## 目 次

I 法人本部	1
第1 経営理念及び経営方針	1
第2 総 括	2
第3 法人が実施する事業	3
第4 重点事項への取組	5
第5 監事監査の状況	6
第6 実績報告	7
II 調布八雲苑	12
第1 総 括	12
第2 経営実績	14
第3 課別事業報告	14
1 管理課	14
2 福祉課	19
3 高齢者在宅サービスセンター	23
III 神代の杜	30
第1 総 括	30
第2 経営実績	31
第3 事業報告	31
IV 調布市ちょうふの里	39
第1 総 括	39
第2 経営実績	40
第3 課別事業報告	40
1 管理課	40
2 福祉課	47
3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）	51
4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）	56
5 地域支援課	58
V 上布田保育園	64
第1 総 括	64
第2 経営実績	64
第3 事業報告	65
VI 調布なないろ保育園	76
第1 総 括	76
第2 経営実績	76
第3 事業報告	77
VII 調布市立学童クラブ・ユーフォー事業部門	86
第1 総 括	86
第2 経営実績	87
第3 事業所別事業報告	87

## I 法人本部

### 第1 経営理念及び経営方針

本法人の経営理念及び経営方針は、次のとおりである。令和3年度についても、前年度に引き続き経営理念及び経営方針に基づき事業を展開した。

#### 社会福祉法人東京かたばみ会経営理念

私たち社会福祉法人東京かたばみ会は、介護・支援・保育・育成を必要とする地域住民に対して、一人ひとりが安心でき、価値あるものと受けとめられるサービスを提供することにより、法人の各施設が「選ばれる施設」になることを目指します。

そのために、人間愛をベースとし、職員の専門的知識・技術の更なる向上を図り、質の高いサービスを提供します。

また、老人福祉施設と児童福祉施設という世代間交流のできる環境を活用します。

更に、これまでの地域の信頼と共に感を大切にします。

#### 社会福祉法人東京かたばみ会経営方針

##### 1 地域への貢献

地域社会の一員としての自覚を持ち、保健・医療など関連機関との連携を強化し、地域福祉の貢献に努める。

##### 2 自立支援・健全育成

利用者一人ひとりのニーズと意志を尊重し、自立の支援と生活の質の向上に努める。また、乳幼児及び児童が心身ともに健やかに育成されるよう努める。

##### 3 人材育成・専門性の向上

新たな視点で「見て、考えて、行動」する幅広い視野を持った自立的な職員の育成を図るため、専門性の向上に努める。

##### 4 経営の透明化

情報公開を積極的に行い、法人に対する信頼と理解を得られるよう努める。

##### 5 経営の安定

質の高い総合的なサービスを継続して提供していくために、経営の安定化を図る。

## 第2 総 括

令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の対応に追われるなど、各施設ともに通常とは異なる運営を強いられた一年となつた。その中で、地域包括支援センターの担当地域再編に伴う地域包括支援センター一ちようふの里サブセンターの運営を開始するとともに、令和3年度からの5年間を計画期間とする中期経営計画に基づく取り組みをスタートさせるなど、法人に新たな役割が加わる中で、経営的な視点を持ちながら各施設がそれぞれの目標に向かって歩みを進めた一年であったと総括できる。

事業所名	事業種別	事業開始年月日	定 員(人)	職員数(人)
調布八雲苑	特別養護老人ホーム	S62. 9. 1	64	78
	通所介護	S62. 10. 1	37	
	居宅介護支援	H12. 4. 1	—	
高齢者部門	特別養護老人ホーム	H 8. 6. 1	100	182
	短期入所生活介護	H 8. 6. 1	20	
	通所介護	H 8. 6. 1	52	
	調布市一般施策等（入浴・配食）	H 8. 6. 1	—	
	居宅介護支援	H12. 4. 1	—	
	地域包括支援センター	H18. 4. 1	—	
	地域包括支援センター「サ」センター	R 3. 4. 1	—	
	訪問介護（老人居宅介護等事業）	H12. 4. 1	—	
神代の杜	訪問介護（障害福祉サービス事業）	H18. 10. 1	—	
	特別養護老人ホーム（地域密着型）	H24. 9. 1	29	36
	短期入所生活介護	H24. 10. 1	3	
児童部門	上布田保育園	保育所	H 7. 4. 1	90
	調布なないろ保育園	保育所	H20. 10. 1	100
	一時預かり事業	H20. 10. 1	5	46
	調布市立なないろ第1学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H20. 10. 1	50
	調布市立なないろ第2学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H27. 4. 1	40
	調布市立わかば学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H21. 10. 1	70
	調布市立多摩川小学校学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H27. 4. 1	60
	調布市立かみいしわら第1学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H31. 1. 15	50
	調布市立かみいしわら第2学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H31. 1. 15	50
	調布市立あおば学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H31. 4. 1	55
	調布市立若葉小学校ユーフォー（※1）	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	60
	調布市立緑ヶ丘小学校ユーフォー	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	
	調布市立富士見台小学校ユーフォー	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	
	調布市立多摩川小学校ユーフォー	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	
	調布市立第三小学校ユーフォー	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	
	調布市立飛田給小学校ユーフォー	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	
	調布市立石原小学校ユーフォー	調布市放課後子供教室事業	H27. 4. 1	
	合 計		—	491
事業内容及び職員数は、令和4年4月1日現在。職員数には有期契約職員、派遣職員等を含む。法人本部の職員数は、調布八雲苑に含めている。				
なお、職員数の内訳は、正規職員216人、非正規職員275人となっている。				

(※1) 調布市放課後子供教室事業実施要綱に基づく放課後の学校施設を利用した自由で安全な遊び場。「ユーフォー」の事業名は調布市独自のもので、「友だちと夕方まで優しく遊ぶ」の友だちの「友」、夕方の「夕」、優しいの「優」、遊ぶの「遊」、の「ゆう」が4つでユーフォーとなっている。

### 第3 法人が実施する事業

本法人は、令和4年3月31日現在、次に記載する社会福祉事業及び公益事業を行っている。

#### 1 調布八雲苑

##### (1) 特別養護老人ホーム調布八雲苑

社会福祉法（昭和26年法律第45号、以下「社会福祉法」という。）第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

##### (2) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号口に規定する介護予防事業（第1号通所事業）

##### (3) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

##### (4) 調布八雲苑指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

#### 2 神代の杜

##### (1) 特別養護老人ホーム神代の杜

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

##### (2) 老人短期入所事業神代の杜

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

#### 3 調布市ちょうふの里

##### (1) 特別養護老人ホームちょうふの里

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

##### (2) 老人短期入所事業ちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期

入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

(3) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号口に規定する介護予防事業（第1号通所事業）

(4) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

(5) ちょうふの里指定訪問介護事業所

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人居宅介護等事業（介護保険法第8条第2項に規定する訪問介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号イに規定する介護予防事業（第1号訪問事業）

(6) ちょうふの里指定訪問介護事業所（障害福祉サービス事業）

社会福祉法第2条第3項第4号の2（第2種社会福祉事業）に規定する障害福祉サービス事業（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号、以下「障害総合支援法」という。）第5条第2項に規定する居宅介護）

(7) ちょうふの里指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

(8) 調布市地域包括支援センターちょうふの里

介護保険法第115条の46に規定する地域包括支援センター（公益事業）

(9) 調布市地域包括支援センターちょうふの里（指定介護予防支援事業所）

介護保険法第115条の45第1項第1号ニに規定する介護予防支援事業（第1号介護予防支援事業）（公益事業）

#### 4 上布田保育園

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する保育所（子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第7条第4項に規定する教育・保育施設）

## 5 調布なないろ保育園

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する保育所（子ども・子育て支援法第7条第4項に規定する教育・保育施設）及びこれと一体的に行われている子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業である一時預かり事業（第2種社会福祉事業）

## 6 調布市立学童クラブ（調布市立なないろ第1・第2学童クラブ、調布市立わかば学童クラブ、調布市立多摩川小学校学童クラブ、調布市立かみいしわら第1・第2学童クラブ及び調布市立あおば学童クラブ）

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する放課後児童健全育成事業（子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業）

## 7 調布市放課後子供教室事業「ユーフォー」（調布市立若葉小学校ユーフォー、調布市立緑ヶ丘小学校ユーフォー、調布市立富士見台小学校ユーフォー、調布市立多摩川小学校ユーフォー、調布市立第三小学校ユーフォー、調布市立飛田給小学校ユーフォー及び調布市立石原小学校ユーフォー）

「調布市放課後子供教室事業実施要綱（平成27年4月1日要綱第77号）」に基づく調布市放課後子供教室事業ユーフォー（公益事業）

※ 上記の「第3 法人が実施する事業」は、従来は、決算報告書の「計算書類に対する注記（法人全体用）」に、法人が実施する社会福祉事業区分における拠点区分及びサービス区分の内容として、事業の根拠となる法律の条項や委託事業の条例等を記載していたが、「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運営上の取扱いについて（平成28年3月31日 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長連名通知）」に基づき、当該注記への記載方法については、拠点区分及びサービス区分のみを列挙する方法へ変更したことから、決算報告書の「計算書類に対する注記」への記載に替えて、本事業報告書に記載するようにしたるものである。

## 第4 重点事項への取組

### 1 中期経営計画の進行管理

本法人は、令和3年3月に、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とする中期経営計画を策定した。計画初年度にあたる令和3年度においては、各拠点それぞれが中期経営計画に掲げる経営戦略の実現を目指した取り組みをスタートさせるとともに、各拠点の業績や取組状況について、毎月の経営会議のほか、計画策定に携わった経営コンサルタントからの業務支援を受けながら、P D C Aサイクルに基づく進行管理を定期的に行った。また、中期経営計画を実現する幹部及び次世代幹部を育成するため、全管理職を対象とした管理職研修を実施し、法人全体として管理職の資質向上に取り組んだ。

## **2 上布田保育園と地域包括支援センターの円滑な運営**

上布田保育園は、市との協定に基づき、令和3年度から公私連携型保育所へ移行し、民設民営保育所としての運営を開始した。運営体制については、従前の公設民営時と変わりないため、特に混乱なく運営を継続することができた。

地域包括支援センターについては、担当地域の再編に伴い、市内西側における新たな担当地域が加わったことから、地域包括支援センターちょうふの里サブセンターを新たに設置し、運営を行った。令和3年度は、新体制の初年度であったことから、サブセンターの認知度を上げることに注力し、地域の身近な相談窓口としての役割を果たすべく、各種会議や季刊誌等様々な場面や媒体を通じて、地域住民や関係機関に広く周知を行った。

## **3 コロナ禍の長期化に対する安全な施設運営**

日本で初めて新型コロナウイルスの陽性者が発見されてから2年以上が経過したが、令和3年度においても2度の緊急事態宣言が発令されるなど、感染拡大の収束には至らず、施設の利用率にも大きく影響した。令和3年11月末に新たな変異株であるオミクロン株が日本国内で初めて確認されて以降、年末から徐々に感染者数が増え始め、令和4年の年明けからこれまでにないスピードで感染者数が急激に増加した。2月に入ると、東京都における1日あたりの新規感染者数が2万人を超える日もあり、休園する市内の認可保育園が続出するなど、新型コロナウイルスの感染拡大は施設運営に甚大な影響を及ぼした。各施設が通常とは異なる運営を強いられる中、法人共通の対応を示した事務連絡の発出や職員のPCR検査を定期的に実施するなど、各施設及び職員一人ひとりの感染拡大防止対策に対する意識を徹底し、利用する児童、高齢者及び家族の方々が安心して施設を利用できるよう、最大限努力した。

## **4 役員・評議員の改選とガバナンスの強化**

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年6月に理事会等の決議の省略手続きを行い、任期満了に伴う新役員及び評議員の選任を行った。役員及び評議員には、それぞれ1人ずつ新任の方が就任し、組織としてのガバナンス強化に繋げることができた。また、令和4年3月には、評議員1人の退任に伴う新たな評議員の選任を行った。

## **第5 定款第18条及び第32条に基づく令和3年度に対する監事監査の状況**

令和4年5月17日、荻原監事及び大槻監事により、理事の業務の執行状況並びに事業報告及び決算報告について実施された。(監事監査報告書は、令和3年度決算報告書の1ページのとおり。)

なお、監査状況は次のとおりであった。

### 1 運営管理関係（荻原監事）

令和3年度の事業報告書をもとに、各施設の事業における運営管理関係について、施設長、管理職を中心にヒアリングを行った。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染防止の観点から緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が繰り返されたため、大幅な行動制限をせざるを得ない状況下においても創意工夫をしながら、それぞれの部署において適切な福祉サービスの提供に努めたことに敬意を表する。

法人全体の事業はコロナ禍でも順調であったと総括できるが、個別の事業のいくつかについては、改善や見直し等を指摘させていただいた。とりわけ、厳しい状況下ではあるが赤字を余儀なくされている事業を中心に今後の取り組みをお願いしたい。また、本年度は中期経営計画の取り組み2年目に当たるが、各計画に基づき法人一丸となった一層の奮起をお願いしたい。

### 2 経理関係（大槻監事）

決算報告書をベースに、各種帳簿、証憑書類等を確認して監査を行った。

また、預金通帳、残高証明書、金銭残高金種別表を確認し、預貯金との整合性を確認した。

寄付金の受け入れに係る関係書類についても確認し、保存すべき書類が正しく保存され、適正に処理されていることを確認した。

令和2年度はコロナ禍において全体的に業績が落ち込んでいたが、令和3年度については、業績が向上していることが数字からも見受けられる。今後ますますの法人の発展につなげていただきたい。

なお、上布田保育園の拠点区分では、公私連携型保育所へ移行したことによる会計方式に変更があったが、適正に処理がされていた。

最後に、調布八雲苑の大規模修繕については、来期以降に向けて是非とも計画の策定をお願いしたい。

## 第6 実績報告

### 1 理事会の開催状況

理事会については、本法人定款細則第15条で「理事会は、毎会計年度に6月、11月及び3月の年3回開催する」と定められているが、本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和3年6月3日及び令和3年6月17日に開催予定であった理事会の開催を取り止め、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本

法人定款第26条第2項の規定に基づく理事会の決議の省略手続を執った。

理事会の開催状況、決議及び承認事項並びに理事会の決議があったものとみなした事項は、次のとおりである。

理事会の省略手続	<p>令和3年5月24日、理事長が、書面により各理事及び監事に対して理事会の決議の目的である事項、当該提案についての通知を行い、令和3年6月3日までに理事全員から同意書、監事全員から異議確認書（異議を述べない旨の確認書）の提出を受け、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法人定款第26条第2項の規定に基づき、当該提案事項8件について理事会の決議があったものとみなされた。</p> <p>理事会決議があったものとみなされた日及び理事会決議があったものとみなされた事項は、次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 理事会決議があったものとみなされた日 令和3年6月3日</li><li>2 理事会決議があったものとみなされた事項（数字は議案番号）<ol style="list-style-type: none"><li>① 令和2年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告の承認について</li><li>② 令和2年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について</li><li>③ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員等処遇改善加算手当支給規程の一部改正について</li><li>④ 令和3年度夏期賞与の総原資の決定について</li><li>⑤ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会役員候補者の選任について</li><li>⑥ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員候補者の選任について</li><li>⑦ 役員等賠償責任保険の契約締結について</li><li>⑧ 令和3年度社会福祉法人東京かたばみ会定時評議員会の招集について</li></ol></li></ol>
理事会の省略手続	<p>令和3年6月17日、理事長が、書面により各理事及び監事に対して理事会の決議の目的である事項、当該提案についての通知を行い、令和3年6月17日までに理事全員から同意書、監事全員から異議確認書（異議を述べない旨の確認書）の提出を受け、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法人定款第26条第2項の規定に基づき、当該提案事項4件について理事会の決議があったものとみなされた。</p> <p>理事会決議があったものとみなされた日及び理事会決議があったものとみなされた事項は、次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 理事会決議があったものとみなされた日 令和3年6月17日</li><li>2 理事会決議があったものとみなされた事項（数字は議案番号）<ol style="list-style-type: none"><li>⑨ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会理事長の選定について</li><li>⑩ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会常務理事の選定について</li><li>⑪ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員選任・解任委員会委員（外部委員）の選任について</li><li>⑫ 調布市ちょうふの里施設長の任免について</li></ol></li></ol>

第 1 回 理 事 会	1 開催日 令和3年11月25日
	2 出席者 (1) 理 事（総数 6 人） 出席 5 人 (2) 監 事（総数 2 人） 出席 2 人
	3 議 事 (1) 報告事項 ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について イ 中期経営計画の取組状況（令和3年度上半期）について (2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 2 件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ⑬ 令和3年度冬期賞与の総原資の決定について ⑭ 調布市ちょうふの里自動車運送業務委託業者との業務委託契約の締結について
	1 開催日 令和4年3月24日
第 2 回 理 事 会	2 出席者 (1) 理 事（総数 6 人） 出席 4 人 (2) 監 事（総数 2 人） 出席 2 人
	3 議 事 決議及び承認事項（数字は議案番号） 17 件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。 ⑮ 専決処分の承認について（調布八雲苑運営規程の一部改正） ⑯ 専決処分の承認について（神代の杜運営規程の一部改正） ⑰ 専決処分の承認について（神代の杜（短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業）運営規程の一部改正） ⑱ 社会福祉法人東京かたばみ会保育士等待遇改善等加算手当支給規程の一部改正について ⑲ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員待遇改善支援補助手当支給規程の制定について ⑳ 社会福祉法人東京かたばみ会保育士等待遇改善臨時特例手当支給規程の制定について ㉑ 社会福祉法人東京かたばみ会放課後児童支援員等待遇改善臨時特例手当支給規程の制定について ㉒ 令和3年度社会福祉法人東京かたばみ会収支補正予算（第1次）について ㉓ ちょうふの里指定訪問介護事業所（訪問介護事業、介護予防訪問介護事業、調布市介護予防・日常生活支援総合事業）運営規程の一部改正について ㉔ ちょうふの里指定訪問介護事業所（障害福祉サービス）運営規程の一部改正について ㉕ ちょうふの里指定訪問介護事業所（介護保険外サービス）運営規程の一部改正について ㉖ 調布市放課後子供教室事業「ユーフォー」運営規程の一部改正について ㉗ 社会福祉法人東京かたばみ会就業規則の一部改正について ㉘ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について ㉙ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会事業計画について

	<p>㉙ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会収支予算について</p> <p>㉚ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員選任候補者の推薦について</p>
--	--

## 2 評議員会の開催状況

評議員会については、本法人定款第11条で「評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する」と定められているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和3年6月17日に開催予定であった定時評議員会の開催を取り止め、社会福祉法第45条の9第10項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条及び本法人定款第13条第4項の規定に基づく評議員会の決議の省略手続を執った。

定時評議員会の決議があったものとみなした事項は、次のとおりである。

定時評議員会の決議の省略手続	<p>令和3年6月8日、理事長が、書面により評議員全員に対して定時評議員会の決議の目的である事項、当該提案についての通知を行い、令和3年6月17日までに評議員全員から同意書の提出を受け、社会福祉法第45条の9第10項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条及び本法人定款第13条第4項の規定に基づき、当該提案事項2件について理事会の決議があったものとみなされた。</p> <p>定時評議員会決議があったものとみなされた日及び定時評議員会決議があったものとみなされた事項は、次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 定時評議員会決議があったものとみなされた日 令和3年6月17日</li> <li>2 定時評議員会決議があったものとみなされた事項（数字は議案番号）             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 令和2年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について</li> <li>② 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会役員の選任について</li> </ol> </li> </ol>
----------------	---

## 3 評議員選任・解任委員会の開催状況

評議員の退任に伴い、次のとおり評議員選任・解任委員会を開催し、2件の議案を審議した。（委員会回数及び議案番号は、委員会発足時からの通算）

第4回評議員選任・解任委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開催日 令和3年6月9日</li> <li>2 出席者             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員（定数3人、総数3人）                     <p>出席 3人</p> </li> </ol> </li> <li>3 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 審議議案（数字は議案番号）                     <p>次の案件を審議し、原案のとおり議決した。</p> </li> </ol> </li> </ol> <p>④ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員の選任について</p>
----------------	--

第 5 回 評 議 員 選 任 ・ 解 任 委 員 会	1 開催日 令和4年3月29日
	2 出席者 (1) 委 員 (定数3人、総数3人) 出席 3人
	3 議 事 (1) 審議議案 (数字は議案番号) 次の案件を審議し、原案のとおり議決した。
	⑤ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員の選任について

評議員選任・解任委員会委員名簿

(令和4年3月31日現在・敬称略)

選任区分	氏 名	備 考
外部委員	小笠原 寿弘	調布市社会福祉事業団理事・事務局長・総合施設長
監 事	荻原 久男	法人監事
事務局員	岩下 純二	法人本部事務長

#### 4 苦情等解決第三者委員の会議の開催状況

例年、年2回開催している苦情等解決第三者委員(こまりごと・なんでも相談)の会議は、令和3年度については、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の観点から、開催されなかった。

なお、苦情等解決第三者委員は、次のとおりである。

苦情等解決第三者委員名簿

(令和4年3月31日現在・敬称略)

氏 名	備 考
有本 キヨ子	調布八雲苑デイサービスセンター家族会リーダー N P O 法人朝日カウンセリング研究会所属
伊藤 麻子	元調布市立学童クラブ指導員
加来 弘子	元調布市ちょうふの里介護職員 ケアマネジャー
村山 洋子	いっしうふれあいネットワーク(第一小学校区地区協議会)副会長 三多摩学童保育連絡協議会事務局次長 調布市立調布中学校学校関係者評価委員

## II 調布八雲苑

### 第1 総 括

#### 1 新型コロナウイルス感染症の影響

令和3年度は令和2年度に引き続き、世界全体が新型コロナウイルス感染症に大きな影響を受けた年度となった。調布八雲苑も例外ではなく、令和3年4月、7月の2回延べ138日間に亘る緊急事態宣言や、4月、6月そして令和4年1月にかけて3回延べ95日間発出されたまん延防止等重点措置、合計233日間という1年間の約3分の2が新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う行動制限等を受ける中での活動を余儀なくされた年度であった。そのため、施設を利用する全ての方への感染防止対策を講じ、職員及び施設で働く方々、そしてその家族までが力を合わせ、利用者や施設への影響ができるだけ少なく乗り切れたことは、大きな成果だといえる。

特に、家族との面会を予約制にし、窓越での面会、また職員の定期的なPCR検査の実施など施設内における感染症の予防に万全を尽くしたことにより、感染拡大を避けることができた。

また、新型コロナウイルス感染予防対策として、令和2年度から続けている平日の毎朝始業時の10分間と夕方終業前の10分間に、本部職員を含む全職員が協力して次亜塩素酸等の薬液による施設内一斉清拭を行ったことが、施設職員のチームワーク醸成と感染予防への意識向上に大きく寄与するところとなった。

令和3年度は中期経営計画の初年度で計画の進行管理を定期的に行いつつ、毎月の経営会議での状況報告を行った。一定の期間ごとに外部の専門家から助言を受けつつ、経営安定化のための方策を探求する中で、介護職を対象に業務量調査を行い、直接介助業務と間接介助業務の区分けを始めとした、専門職が担う必要のある業務の総量を詳らかにした。まだ探究の途中であるが、この業務量調査を一つの契機として介護職に相応しいあるべき人員体制の考察と労働環境の維持向上に努めていきたい。計画は達成するためのものであり、全職員でしっかりと共有し、令和4年度以降も計画に則ってPDCAサイクルを回しつつ、着実に成果に結び付けたい。

令和3年度からの介護報酬改定が0.7パーセントのプラス改定となる中、収支差額の改善に向け、特養部門とデイサービス部門の目標利用率の達成に力を注いだが、冒頭に触れた新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、改善するには至らなかった。また、特養利用者の平均介護度は4.4(令和2年度と同じ)、平均年齢は88.5歳(令和2年度は89.0歳)となっており、入居者の重度化・高齢化が進んでいる中、入退去者の入れ替わりが多かったことと入院者数の高止まりが経営に対するマイナス要因となった。一方、デイサービスでは利用者

の新型コロナウイルス感染に伴う活動休止日が1日、6月及び7月は利用控えもあり大きな減収となった。その他、濃厚接触者となった利用者が数名いたが、それ以上の感染はなかった。その後、下半期に入り、職員から利用者に対する電話での安否確認などの励行により、徐々に利用率が回復し、認知症対応型と合わせ月額800万円を超える収入の月があるなど利用状況は安定してきている。

## 2 経営の安定化

調布八雲苑においては、特に収支の安定が課題となる中、全職員がコスト意識を持って業務に取り組めるよう毎月の職員会議において、前月分の利用率や収支状況を報告し、認識の共有化を図っている。

それにより、全職員がサービス向上の理念を共有し、経営目標達成に向けての取り組みや収支改善に向けた取り組みを継続的に行うことができた。

令和3年度は介護報酬改定、それに伴う栄養ケアマネジメント強化加算等取得可能な加算を取得し、利用率目標達成のため、積極的な営業活動を行った。

その結果、施設全体の収益は令和2年度に比べ増加したが、利用者の入院、退所等が多く、新型コロナウイルス感染症の影響で利用率が低迷した月もあり、安定的な収支を確保することはできなかった。

## 3 利用者が安心できる施設環境の整備

調布八雲苑は、調布市内初の特別養護老人ホームとして開設してから34年目を迎えた。建物の躯体は堅牢ではあるが、設備や機器の一部は経年劣化が進み、ときに不具合が発生し、修理や調整を重ねながらの運営を行っている状況である。

そこで、平成15年から平成16年にかけて実施した大規模修繕工事からすでに約16年が経過していることを踏まえ、中期経営計画では利用者や職員の安全確保の観点から、令和5年度を目途に空調設備を中心とした大規模修繕を盛り込んでいる。資金面も含め、計画を遺漏なく実施できるよう準備を進めていきたい。

## 4 地域や調布市との連携

令和3年度は毎年4月第4土曜日に行われる防災教育の日が、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うまん延防止等重点措置期間中であったことから、通学している小中学生と教職員だけという形態で実施されたため、令和元年9月に調布市立八雲台小学校と災害時の相互応援協定を締結し、防災教育の日の訓練をこの協定に基づく地域訓練と位置付けていたものの、施設としては訓練への参加ができなかった。

調布八雲苑は、調布市と災害時における2次避難所としての協定を結んでおり、災害時を想定した市との通信連絡訓練を令和4年3月に実施した。調布八雲苑の全課の職員が参加し、市総合防災安全課職員の指導を受けて、防災行政無線の機能を利用した無線器による交信訓練を参加者全員が体験することができた。

また、恒例の夏まつりは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中

止せざるを得なかった。

## 第2 経営実績

### 1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

事業名		目標値	令和3年度 実績	令和2年度 実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率		97	95.0	93.8
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率		—	—	—
通所介護事業	通常規模型通所介護 利用率	85	80.2	76.1
	認知症対応型通所介護 利用率	82	79.5	70.4
居宅介護支援事業 ケアプラン作成	70件(月)	77.1(件)	70.6(件)	

## 第3 課別事業報告

### 1 管理課

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 人材の確保と育成

職員の欠員をできるだけ早期に補充すべく、多様な媒体と様々な手段を活用して人材の確保に努めた。

令和3年度の正規職員の採用は3人（介護職員3人）、退職は5人（介護職員4人、生活相談員1人）であった。有期契約職員の人材確保が難しく、欠員分は派遣職員で代替したが、派遣職員の入退職が多く、安定的な職員体制を整えることが難しい一年であった。適正な人員体制を確立し、職員の働きやすい職場環境作りに努めるとともに、新たな採用手法を調査研究及び実践し、職員体制の確保に一層の努力を図っていく。

また令和2年度に引き続き、職員が心身ともに安心して仕事に取り組める環境づくりの一環として、全職員を対象にストレスチェックを実施した。

人材育成については、施設内での事故防止、感染症発生防止の観点から、各種対策委員会と施設内研修を行っている。安全衛生委員会（12回）、感染症等対策委員会（4回）や事故防止対策委員会（4回）、身体拘束廃止委員会（4回）を実施するとともに、年間の施設内研修計画を立て各委員会主催の研修会を9回、福祉課主催の研修を2回、合計11回実施することができた。

##### イ 給食内容の充実

検食日誌の内容や給食委員会で出された意見に対し、改善に努めた。

また、季節感や旬の物を取り入れ、利用者に喜んで召し上がっていただけ  
るような行事食を提供した。今後も安全で美味しい食事の提供を目標に、多  
職種で協力していく必要がある。

特養の利用者においては毎月のカンファレンス等含め、一人ひとりに細や  
かな食事提供の対応に努めた。給食の主な状況は次のとおりである。

- (7) 食種の割合は、主食ではご飯 27%、柔らかご飯 19%、お粥 42.9%、  
ミキサー粥 11.1%、副食では、常食 27.3%、粗刻み 7.3%、刻  
み 23.6%、極刻 29.1%、ミキサー 12.7%（ソフト含む）とな  
り、常食の割合が増え、粥・ミキサーが減った。
- (1) リクエストメニュー 10回・バイキング 2回・行事食 13回・ホーム  
喫茶 6回、セレクトメニュー 2回を実施し、食事を楽しんでもらうように  
した。
- (4) デイサービスの利用者には、年間の行事予定に沿って職員と相談しな  
がら、行事に合った食事やおやつを提供した。
- (1) 利用者の声や検食時の意見、感想、味のチェックなど、その日の献立に  
対して調理に反映するよう努めた。
- (4) 栄養ケアマネジメントは、毎月の体重測定結果と摂食状況等を看護職  
員・ケアマネジャー・介護職員・栄養士がカンファレンスを行い、利用者  
の日々の変化に対応しながら進めた。
- (4) 令和 3 年度は、給食調理の衛生管理マニュアルの見直しを行った。また、  
新しい衛生管理マニュアルに基づき、衛生管理研修を実施し、衛生管理及  
び食中毒予防の徹底を図った。

#### ウ 神代の杜との連携

開設して 9 年が経過した神代の杜は、調布八雲苑のサテライト型の施設で  
あることから、様々な分野で連携・協力して業務を行うとともに、管理課長  
及び栄養士の兼務により円滑な事業の実施と経営の安定化に向け、本体施設  
としての役割を果たした。

また、様々な問題の発生に対しては相互に応援体制が取れるよう、引き続  
き協力していく。サテライト施設である神代の杜は、給食調理部門において、  
災害時や感染症における相互応援や、衛生管理マニュアルの研修及び衛生管  
理の徹底など相互協力体制をさらに進めていきたい。

#### (2) 実績報告

##### ア 特養（介護老人福祉施設。以下同じ。）利用者食数

月	朝 食	昼 食	夕 食	月	朝 食	昼 食	夕 食
4	1,784	1,785	1,785	10	1,907	1,908	1,906

5	1,934	1,936	1,934	11	1,764	1,768	1,767
6	1,841	1,843	1,843	12	1,818	1,818	1,817
7	1,894	1,894	1,894	1	1,784	1,787	1,786
8	1,890	1,894	1,895	2	1,646	1,650	1,647
9	1,886	1,888	1,888	3	1,915	1,914	1,917
				計	22,063	22,085	22,079

イ 行事食献立一覧（特=特養、デ=デイサービス）

月日	行事名	課名	献立内容
4月3日	リクエストメニュー	特・デ	ちらし寿司、筑前煮、菜の花ごま和え、澄まし汁
14日	リクエストメニュー	特・デ	竹の子ご飯、ほっけ塩焼き、キャベツ炒め他
5月5日	こどもの日	特・デ	グリンピースご飯、チキンカツ、竹輪の煮物他
20日	ホーム喫茶	特	ショートケーキ、ねりきり、コーヒーゼリー
6月11日	リクエストメニュー	特・デ	挽肉カレー、キャベツとカニの酢の物、ゼリー
24日	セレクトメニュー	特	うな丼又は親子丼、人参味噌炒め、黄金和え他
7月7日	七夕	特	七夕そうめん、揚げ出し豆腐、お茶福豆
28日	リクエストメニュー	特	うな丼、煮物、なます、澄まし汁
29日	ホーム喫茶	特	ケーキ、白桃ゼリー。水ようかん
8月12日	リクエストメニュー	特・デ	ハヤシライス、コールスローサラダ、ゼリー
16日	リクエストメニュー	特・デ	ちらし寿司、筑前煮、澄まし汁、プリン
9月13~18日	敬老週間	デ	松花堂弁当、柿、味噌汁
16日	ホーム喫茶	特	ショートケーキ、チーズケーキ、プリン
19日	敬老祝い	特	赤飯、天ぷら、里芋饅頭、和え物、ゼリー他
24日	リクエストメニュー	特・デ	ソース焼きそば、大学かぼちゃ、ヨーグルト和え
10月7日	リクエストメニュー	特・デ	鶏うどん、さつまいものとがお煮、フルーツプリン
25日	リクエストメニュー	特	秋刀魚の塩焼き、里芋そぼろ煮、小松菜和え物
28日	セレクトメニュー	特・デ	海鮮二色丼又はうな丼、菜の花辛子和え、洋梨
11月18日	ホーム喫茶	特	モンブラン、チョコレートケーキ、ティラミス
24日	バッキン	特	握り寿司、いなり寿司、茶わん蒸し、お茶福豆他
12月23~25日	クリスマスケーキ	デ	おやつにクリスマスケーキ
25日	クリスマスメニュー	特、デ	ピラフ、鶏のソース焼き、かぼちゃサラダ、スープ他
31日	年越し	特	年越しそば、さつまいものとがお煮、黄桃
1月1日	元旦	特	赤飯、おせち料理、雑煮、5点盛り
4.5.6日	お正月週間	デ	松花堂弁当、お澄まし、みかん、おやつに甘酒
7日	七草	特・デ	七草粥、魚の塩麹焼き、けんちん炒め、酢の物
20日	ホーム喫茶	特	ショートケーキ、チーズケーキ、プリン

28日	リエストメニュー	特・デ	たぬきうどん、大学芋。フルーツプリン
2月3日	節分	特・デ	ちらし寿司、大豆と鶏肉の煮物、きんとき煮豆他
22日	バーキング	特	握り寿司、いなり寿司、茶碗蒸し、白桃
3月3日	ひな祭り	特・デ	ちらし寿司、がんもの煮物、お茶福豆、澄まし汁
18日	ホーム喫茶	特	モンブラン、レアチーズケーキ、プリン
29.30.31日	修了式	デ	松花堂弁当、味噌汁、オレンジ、おやつにケーキ

#### ウ 研修の状況

研修参加者は395人、延べ参加人数は406人であった。

(単位：人)

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	6月4日	栄養ケアマネジメント研修会	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
2	6月16日	介護サービスにおける苦情対応について	東京国保連合会	1	1
3	7月27日	施設内研修「3大感染症の初期対応」	感染症対策委員会	47	47
4	8月10日	次世代介護機器公開見学会（オンライン）	（公財）東京都福祉保健財団	2	2
5	8月11日	デイサービス情報交換会	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
6	9月1日	ハラスマント防止等 管理者向け リスクマネジメント	東社協 東京都福祉人材センター研修室	1	1
7	9月17日	アレルギー疾患研修	（公財）東京都福祉保健財団	1	1
8	9月27日	職員のためのメンタルヘルス講習会	東社協 東京都福祉人材センター研修室	1	1
9	10月5日	BCP策定講座（自然災害編）	東京都	1	1
10	10月6日	「福祉職場における虐待を生まない組織作りのポイント」	身体拘束適正化委員会	25	25
11	10月25日	よくわかるLIFE活用術	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
12	10月26日	新型コロナウイルス感染症対策オンライン研修会	東京都社会福祉協議会	1	1
13	10月27日	施設内研修「福祉職のためのメンタルヘルス講座」	安全衛生委員会	19	19
14	10月28日	介護職員スキルアップ研修【医療的知識編】	東社協 東京都福祉人材センター研修室	2	2
15	10月29日	介護職の働きがいとレジリエンス（逆境力）	介護保険サービス事業者調布連絡協議会	1	1
16	11月2日	LIFEの導入と活用に向けた課題	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
17	11月4日	BCP策定講座（感染症編）	東京都	1	1
18	11月10日	施設内研修「高齢者施設の新型コロナウイルス感染症対策事例」	感染症対策委員会	51	51

19	11月5日～ 2月26日	主任介護支援専門員研修	東京都介護支援専門員研究協議会	1	12
20	11月12日	労災保険・雇用保険の基礎知識講習会	東京社会保険協会	1	1
21	11月17日	介護サービス現場における事故事例と対策	介護保険サービス事業者調布連絡協議会	1	1
22	12月15日	ミールラウンドでの食事観察	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	2	2
23	12月16日	アレルギー疾患研修	(公財)東京都福祉保健財団	1	1
24	12月20日	利用者の尊厳を尊重した看取りを行うために	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
25	1月11日	施設内研修「その人らしさを大切にしたケアを目指して」	身体拘束適正化委員会	62	62
26	1月19日	施設内研修「虐待防止と身体拘束」	身体拘束適正化委員会	13	13
27	2月1日	職場内研修担当セミナー	東社協 東京都福祉人材センター研修室	2	2
28	2月2日	採用・人事担当セミナー	東社協 東京都福祉人材センター研修室	2	2
29	2月10日	施設内研修「高齢者施設におけるターミナルケアに関する研修」	福祉課	17	17
30	2月20日	介護報酬請求事務に関する研修会（応用編）	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	2	2
31	3月7日	施設内研修「事故防止の事例1」	事故防止対策委員会	35	35
32	3月10日	施設内研修「看取り期における記録の重要性と活用」	福祉課	18	18
33	3月22日	施設内研修「事故防止の事例2」	事故防止対策委員会	35	35
34	3月22日	施設内研修「感染症予防手洗い研修」	感染症対策委員会	44	44
研修参加人数合計 395人、述べ参加人数合計 406人					

## エ ボランティア等の状況

令和3年度は、令和2年度同様新型コロナウイルス感染症予防対策や緊急事態宣言等の発令に伴い、原則、ボランティア活動の自粛をお願いした。しかし、利用者サービスへ影響のある活動については、限定的な受け入れを行った。そのため年間の活動延べ人数は985人で、令和2年度の1,159人に比べ、174人減少した。

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先			延べ人数
		特養	デイ	施設全体	
クラブ・技術指導等	手芸	0	36	0	36
	書道	0	89	0	89
	編み物	1	42	0	43

	藤細工	0	5	0	5
	革細工	0	90	0	90
	陶芸	0	35	0	35
	絵画	0	0	0	0
全般・諸活動	リネン類整理	489	0	0	489
	傾聴	0	0	0	0
	歌・朗読・紙芝居	0	0	0	0
	鍼灸・マッサージ	0	0	0	0
	ダンス・リズム体操	0	0	0	0
	諸活動補助等	11	187	0	198
	音楽・演奏	0	0	0	0
	調布市立柏野小学校	0	0	0	0
中庭美化	中庭草取り	0	0	0	0
行事等	夏まつり	0	0	0	0
	ホーム喫茶	0	0	0	0
	その他行事	0	0	0	0
合 計		501	484	0	985

## 才 実習生の受入状況

令和3年度は、令和2年度同様新型コロナウイルス感染症予防対策や緊急事態宣言等の発令に伴い、実習の中止や辞退の申し出が多く、年間の受け入れ延べ人数は58人で、令和2年度の188人に比べ130人減少した。

(単位：人)

学 校 人 等	目 的	実 習 先			延 ベ 実習者数
		特養	デイ	支援	
多摩職業能力開発センター府中校	実務者研修資格取得	6	6	0	12
白梅学園大学子ども学部	介護実習	20	0	0	20
日本福祉教育専門学校	介護実習	6	0	0	6
二葉栄養専門学校	栄養士実習	20	0	0	20
実習生合計					58

## 2 福祉課

### (1) 重点事項への取組

#### ア 利用者の重度化に対応したケアの推進

令和3年度は、新規入居者17人、退所者16人となり、令和2年度と比較し入退所者数は減少し、やや落ち着きを取り戻した。

また、入居利用者の状況については、平均要介護度及び要介護4以上の人数、平均年齢は昨年度同様の傾向となり、引き続き、重度者に対応したケアの推進が重要となっている。

なお、令和3年度も、入居者の高年齢化とともに職員の介護介入機会が増加する中で、入退院を繰り返す利用者も多く、安全かつ安心な生活を提供するため健康状態の確認や精神状態の安定に注力し、多職種協働による専門性を発揮し、廃用や寝たきり防止等、適切なケアの提供に努めた。

#### イ 介護と医療との連携、緊急時の対応及び看取りケアの実践

令和3年度においても、毎年1回取り交わしを行う「救急時における延命処置承諾書」の新たな機会に当施設の対応の理解を深め、利用者・家族に対しては、従来と同様に「救急時における延命処置承諾書」を取り交わし、本人の意思を尊重した支援に努めた。

また、医療支援においては、入退院が多い中、嘱託医、キーパーソンとの連携を適宜実施するとともに、医療と介護が連携した新型コロナウイルスの感染症予防対策の徹底により、感染者の発生を防ぐことができた。10月頃に発症した疥癬についても拡大傾向には至ったものの、早期終息のため職員が一体となり多数の利用者ケアに尽力した。

#### ウ 施設内研修の充実と人材育成

令和3年度においては、介護保険制度の改正に伴う事業継続計画(BCP)の作成に着手するほか、これまで実施してきた委員会の体系の在り方についても検討を行った。

また、各委員会を通じ、新型コロナウイルス感染予防の観点から一人でも多くの職員が参加できるよう書面開催を実施するなど、安全、安心な施設運営とともに職員の資質向上に取り組んだ。

特に、非常時対策や虐待防止については、非常時訓練や「虐待の芽チェックリスト」を繰り返し実施することで、職員の意識がしっかりと定着していることを確認することができた。

### (2) 実績報告（特養・定員64人）

#### ア 年齢状況

90歳代の退所者が多かったため平均年齢は88.5歳となり、令和2年度末から0.5歳若返った。

令和4年3月31日現在（単位：人）

年齢別	男	女	計	構成比 (%)
65歳未満	0	1	1	1.6
65～70歳未満	0	2	2	3.1

3	70～75歳未満	1	1	2	3.1
4	75～80歳未満	1	0	1	1.6
5	80～85歳未満	3	6	9	14.1
6	85～90歳未満	3	14	17	26.6
7	90～95歳未満	3	18	21	32.8
8	95～100歳未満	0	4	4	6.2
9	100歳以上	0	7	7	10.9
合 計		11	53	64	100
最高年齢 (歳)		92	105	—	—
最低年齢 (歳)		72	53	—	—
平均年齢 (歳)		84.4	89.4	88.5	—

#### イ 在籍期間

令和3年度の新規入居者は17人で、入居利用者の在籍期間については、半数以上の方が3年未満となった。これにより家族や関係者との関係性構築も課題となってきた傾向も窺える。また、多床室の特徴もあり、入居待機者も減少している。

令和4年3月31日現在 (単位:人)

期 間	男	女	計	構成比 (%)
1 年未満	1	16	17	26.2
1～3年未満	5	17	22	33.8
3～5年未満	0	12	12	18.5
5～10年未満	4	6	10	16.9
10年以上	1	2	3	4.6
合 計	11	53	64	100

#### ウ 退所状況

退所者は、年間16人で、令和2年度から3人減少した。

内訳は、下表のとおりである。

性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1 男	95	4月	調布市	医療機関入院	2年4か月	4
2 女	89	6月	調布市	医療機関入院	5年2か月	5
3 女	106	7月	調布市	医療機関入院	4年2か月	5
4 女	103	8月	調布市	医療機関入院	1年1か月	5
5 女	97	8月	調布市	外泊(入院)中に死亡	25年6か月	5
6 女	92	8月	調布市	医療機関入院	5年2か月	5

7	男	85	9月	調布市	外泊(入院)中に死亡	10年7か月	5
8	女	87	10月	調布市	外泊(入院)中に死亡	1年1か月	5
9	女	88	12月	調布市	外泊(入院)中に死亡	1年4か月	5
10	女	97	12月	調布市	外泊(入院)中に死亡	5年9か月	5
11	女	97	12月	調布市	医療機関入院	8年3か月	5
12	女	98	12月	調布市	外泊(入院)中に死亡	5年3か月	4
13	女	89	1月	調布市	入所中に死亡	4年4か月	4
14	女	94	1月	調布市	医療機関入院	5年4か月	4
15	女	85	1月	調布市	医療機関入院	1年2か月	5
16	女	90	1月	調布市	医療機関入院	5年	4
平均		91.0	—	—		4年5か月	4.4

## 工 月別要介護度分布表

令和3年度についても、平均要介護度や要介護4以上の利用者の傾向は令和2年度とほぼ同等で一定化されてきた。

また、利用者の認知症状の進行や介入頻度の増加など、状況に応じて要介護認定の見直しを提案するなどの取り組みを行った。

(単位:人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	1	34	29	4.4
5	0	0	1	33	29	4.4
6	0	0	1	33	30	4.5
7	0	0	1	33	29	4.4
8	0	0	2	36	30	4.7
9	0	0	2	37	26	4.4
10	0	0	2	37	25	4.4
11	0	0	2	38	24	4.3
12	0	0	2	38	25	4.4
1	0	0	3	40	23	4.4
2	0	0	2	38	24	4.3
3	0	0	2	38	24	4.3
構成比(%)	0	0	2.7	56.2	41.1	-
平均	0	0	1.8	36.3	26.5	4.4

## 才 月別利用実績

令和3年度の年間利用率は95%となり、令和2年度比1.2ポイント増えたが、退所状況が示すとおり、入院先での退所者が多く、入院期間を要したケースが多かった。

また、令和3年度においても、新規入所予定者の待機施設や入居者の入院先の医療機関における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生など、迅

速な受け入れに注力したものの、入退所調整に苦戦する結果となった。

月	延べ利用日数（日）	延べ利用可能日数（日）	利用率（%）
4	1,851	1,920	96.4
5	1,937	1,984	97.6
6	1,844	1,920	96.0
7	1,892	1,984	95.4
8	1,894	1,984	95.5
9	1,888	1,920	98.3
10	1,923	1,984	96.9
11	1,784	1,920	92.9
12	1,824	1,984	91.9
1	1,787	1,984	90.1
2	1,652	1,792	92.2
3	1,917	1,984	96.6
合計	22,193	23,360	
平均	1,849	1,947	95.0

### 3 高齢者在宅サービスセンター

#### (1) デイサービス

##### ア デイサービスにおける相互支援効果の見直し

令和3年度は、利用者にも定着しつつあったニューノーマル（新たな生活様式）を踏まえ、活動、食事、送迎等の新たなルール化を検討し、提供場所の変更などサービス体系の見直しを図った。

また、再三中止となっていた餅つき会や新年会等の集団行事においても人数制限を考慮し、グループ化による趣向を変えた行事イベントとして実施することができた。

特行事イベントについては、事前に案内を配布したことにより、行事への理解も高く、集団活動への抵抗なく集客を得ることができた。

##### イ 職員の専門性の向上

令和2年度からオンライン（リモート）研修が増加傾向にあり、外部研修の機会も増えてきたことから、令和3年度は、一人一研修を目標にしてきたが、活動時間と研修時間の調整が合わず、時間外における研修に限られてしまった。

しかしながら、デイサービス加算に関する研修や他事業所との意見交換会などには、参加することができた。

また、外部ボランティア等との連携についても、緊急事態宣言期間解除後からは、人数制限を設けつつも多大なご理解とご協力をいただき、徐々

に導入することができた。

#### ウ 利用率の維持と収支の安定化

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、利用者数の受入と登録利用者の確保に努めてきたが、緊急事態宣言の影響により申込者も皆無な状況が続き、新規登録者の確保が困難な状況となっていた。

また、利用状況についても、新型コロナウイルス感染者の発生に伴う事業休止や濃厚接触者の対応などにより利用率が激減し、感染対策の徹底に対応を要した。

特に、収支の安定化については、中期経営計画を踏まえた新規登録者の確保のためのPR活動と同時に、利用者や家族、ケアマネジャーとの連携を図り、現利用者のニーズを早期にキャッチし、曜日増等の提案を実施するなど、定員の補充に繋がるよう取り組んだ。

#### エ 認知症高齢者ケアの実践と家族支援の強化

認知症対応型通所介護では、認知症特有の行動と理解に注視し、感染症対策の徹底が主な取組となったものの、ポスター効果や小集団における対応に転換し、安全で安心な活動の場を提供することができた。

また、利用者一人当たりの利用回数が増加し、ショートステイなどの中止対応における臨時受け入れなど、介護者との連携を密に行うとともに、介護世代の変化により、活動時の様子や自宅での様子の共有性が高まり、レスパイト機能を果たすなどの介護負担軽減に繋がる取り組みができた。

#### オ 医療相談と支援の取組

令和3年度においても、食事席や室内消毒などの環境調整をはじめ、新型コロナウイルス感染症の予防及び拡大防止に尽力するとともに、ワクチン接種状況の把握や基礎疾患を保有する利用者の不安解消に努めた。

また、日々の健康状態から科学的介護推進体制加算における内服状況の確認に至るまで、生活相談員と連携し、適宜、情報収集を行ったことにより、家族との信頼関係も深まり、利用者の健康維持に寄与することができた。

### (2) 居宅介護支援事業

#### ア ケアマネジメントの質の向上及び公正中立なケアマネジメントの継続

令和3年度も引き続き、「利用者が望むその人らしい生活の実現」を目標に、新型コロナウイルス感染症が拡大する中においても、各関係機関と協働し、安定したサービスの提供に繋げることができた。

また、職員間においても、ケアマネジメントの質を確保するため、毎週1回の居宅介護会議を開催し、地域資源の情報共有やケアマネジメント技術に関する確認、ケアプランの実践などを共有し、信頼のあるケアプランの提供

に努めることができた。

#### イ 健全な経営と自立運営の推進

令和3年度は、令和2年度から開始した体制における実践とともに安定したケアプランの作成件数を維持するため、地域包括支援センター等と定期的に連携を図った。

また、健全な運営を図るため、各職員がそれぞれに担うべく役割に応じ、一体的に取り組み、介護保険制度に基づく管理者要件保有者の確保など、安定した事業展開に繋げることができた。

#### ウ 地域高齢者への支援

令和3年度も「切れ目のない医療及び介護サービスの提供」をするため、訪問診療や訪問看護とのパイプ役を担い、利用者が安心して在宅生活を送れるよう尽力した。

また、ターミナルケアや医療度の緊急性の高い高齢者の支援とともに、家族介護者のハートケアやサポートなど適切な訪問を心掛け、不安や負担の解消に努めた。

### (3) 実績報告

#### ア 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別利用実績

令和3年度の年間利用率は、80.2%で令和2年度比4.1ポイント増えた。

令和3年度の傾向としては、緊急事態宣言期間とともに新型コロナウイルス感染者の発生により上半期の利用率が74.3%と低位し、利用回復に苦戦を強いられた。

特に、6月期においては、62%台と新型コロナウイルスの影響が大きかった。

下半期については、新規利用の申し込みが少ない中、定員の空き利用を進め、曜日増加希望者の受け入れを図ったことにより86.5%を確保できた。

また、登録利用者数については、令和2年度末とほぼ同等で新規受け入れは14人に止まった。

（単位：人）

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（%）
4	470	914	25	75.2
5	481	933	26	74.0
6	393	767	25	62.9

7	477	925	27	70.7
8	502	977	25	80.3
9	499	974	24	83.2
10	528	1,030	26	81.2
11	511	998	24	85.2
12	532	1,037	24	88.7
1	509	1,007	23	88.5
2	482	956	22	87.6
3	570	1,128	26	87.7
合 計	5,954	11,646	297	80.2
1 日平均	20.05	39.21		

イ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別利用実績  
令和3年度の年間利用率については、79.5%で令和2年度比9.1ポイント増加した。

利用率が増加した背景は、ショートステイなどの宿泊サービスが休止され、臨時利用の受け入れを行ったことが利用実績の安定に繋がった。

しかしながら、6月期に新型コロナウイルス感染者とともに濃厚接触者判定を受けた9人が一定期間自宅待機となつたため、月実績での差も大きく当該事業の不安定さが表れた。

（単位：人）

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（%）
4	260	515	26	83.3
5	251	492	26	80.4
6	166	332	25	55.3
7	247	492	27	76.2
8	257	514	26	82.4
9	241	482	26	77.2
10	256	511	26	82.1
11	265	525	26	84.9
12	243	485	24	84.4
1	251	501	24	87.2
2	232	459	24	80.6

3	261	521	27	80.6
合 計	2,930	5,829	307	79.5
1 日平均	9.54	18.99		

#### ウ 認知症対応型通所介護事業運営推進会議の開催

認知症対応型通所介護は、地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が平成29年度から義務付けられた。

これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するために設置するものである。

概ね6か月に1回の開催が求められ、令和3年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
第1回	令和3年10月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の事業運営について</li> <li>・利用傾向及び利用者状況について</li> <li>・活動報告について</li> <li>・ご利用者、ご家族からの意見について</li> </ul>

※利用者及び利用者家族についてはアンケートを実施し、意見等をいただいた。

運営推進会議の構成員については、下表のとおりである。（敬称省略）

氏 名	選任区分	任 期
添田 淳子氏	民生・児童委員	
島木 愛氏	調布市地域包括支援センター ゆうあい職員	令和3年10月1日～ 令和5年3月31日
有本 キヨ子氏	地域有識者	

#### エ 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別要介護度分布表

令和3年度の平均要介護度は1.43となり、令和2年度比0.02ポイント重度化したものの、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的な対応により認定更新が臨時の措置を受けていたことから、大幅な変化は見られない結果である。

また、給付別延べ人数割合では、要介護者81.8%、要支援者18.2%で、要介護者が5ポイント増加している。

（単位：人）

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
4	30	67	228	68	56	21	0	470

5	30	71	229	73	56	22	0	481
6	21	54	197	61	47	13	0	393
7	19	65	239	80	53	21	0	477
8	22	69	248	94	50	19	0	502
9	18	63	261	84	53	20	0	499
10	23	69	260	93	56	27	0	528
11	21	64	258	91	46	31	0	511
12	27	65	271	91	46	32	0	532
1	27	64	250	82	56	30	0	509
2	24	65	229	78	54	32	0	482
3	28	74	272	93	63	40	0	570
合計	290	790	2,942	988	636	308	0	5,954
比率(%)	4.9	13.2	49.4	16.6	10.7	5.2	0.0	
1日平均	1.0	2.7	9.9	3.3	2.1	1.0	0.0	20.0

才 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別要介護度分布表  
令和3年度の平均要介護度は2.62となり、令和2年度比0.41ポイント重度化した。

当該事業についても、通所介護同様に新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的な対応により認定更新が臨時の措置を受けていたことから、大幅な変化は見られていないものの、認知症の周辺症状の悪化による介護場面の増加傾向は継続している。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	53	63	115	29	0	260
5	0	0	44	64	117	26	0	251
6	0	0	38	43	64	21	0	166
7	0	0	51	61	106	29	0	247
8	0	0	49	61	113	34	0	257
9	0	0	39	55	110	37	0	241
10	0	0	34	70	116	36	0	256
11	0	0	29	79	115	42	0	265
12	0	0	26	71	107	34	5	243
1	0	0	33	64	99	40	15	251
2	0	0	15	48	122	33	14	232

3	0	0	16	62	140	30	13	261
合計	0	0	427	741	1,324	391	47	2,930
比率 (%)	0.0	0.0	14.6	25.3	45.2	13.3	1.6	
1日平均	0.0	0.0	1.4	2.4	4.3	1.3	0.2	9.5

**力 居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数(介護予防サービス計画含む。)**

令和3年度のケアプラン作成件数は、925件と令和2年度比78件増となった。

特に、居宅介護支援事業においては3人体制のため、事業の安定化を意識し、毎月の目標件数以上のプラン作成を維持できた。

(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
国保連請求	78	74	74	75	78	77	75	84	79	80	76	75	925	77.1
請求外相談	0	1	0	1	2	1	2	2	1	2	3	2	17	1.4
合計	78	75	74	76	80	78	77	86	80	82	79	77	942	78.5

※ 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

**キ 居宅介護支援事業所の要介護認定及び要支援認定調査件数**

令和3年度についても、令和2年度同様に新型コロナウイルス感染症に伴う臨時の対応による要介護認定調査自体が減少していたが、定期的な調査は行うことができた。

(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
認定調査	1	1	2	2	1	1	1	0	1	1	1	2	14	1.2

### III 神代の杜

#### 第1 総 括

##### 1 地域密着型施設としての取組と安定した施設運営

神代の杜は、調布市内で唯一の地域密着型特養として独自の取り組みを行うとともに、本体施設である調布八雲苑のサテライト施設として、単にバックアップの下で運営するのではなく、緊密な連携を取りつつ、単独施設として安定した経営基盤を築けるよう努力することが求められる。

また、地域密着型施設は、調布市に事業者としての指定を受けていることから、事業計画書、事業報告書及び運営推進会議議事録に基づき、適時、施設運営について報告し、指導・助言を受けている。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で各種団体との関係を継続する合行事等、地域密着型特養としての地域貢献の取り組みは実施できなかったが、令和3年度は、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用以外の期間中は各種団体やボランティアの活動を受け入れた。しかし、災害時における地域との連携強化の取り組みについては、近隣自治会との協議ができなかつたことから、令和4年度以降に取り組んでいく。

利用者ケアについては、ユニットごとのスローガンを定めて、ユニット会議を毎月開催し、スローガンを基にしたユニットそれぞれの特色ある入居者ケアを実践できた。

経営面においては、令和3年度の特養の利用率が年間で96.7%となり、目標よりも0.3ポイント低かったが、施設全体の収支差額率はプラス0.17%で、資金収支差額は320万円余の黒字となった。

黒字となった要因としては、令和2年度の特養退去者が9人であったことに對し、令和3年度は6人となり、退去者が少なかったことで退去から入居までに要した空床日数が減少し、特養のサービス活動収益が増加したことによるものである。

ショートステイの利用率は、令和2年度から0.3ポイント上昇したが、目標値を大きく下回った。その要因は、令和4年1月から2月にかけて新型コロナウイルス感染者が発生し、一時的に利用受け入れを中止したことに加え、受け入れ再開後にも利用控えがあり、利用率が著しく低下したことによるものである。このような状況であるが、令和2年度と比較して要介護4及び5の利用者の利用が多くなったことで、ショートステイのサービス活動収益は令和2年度と比較して約40万円增收となった。

令和4年度は、ショートステイの初回利用時の家族負担を軽減することで利用率の向上に取り組んでいく。

## 第2 経営実績

### 1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：%)

事業名	目標値	令和3年度 実績	令和2年度 実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率	97.0	96.7	95.0
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率	80.0	49.8	49.5

## 第3 事業報告

### 1 重点事項への取組

#### (1) 感染症及び災害発生時の施設機能の強化

令和3年1月から2月にかけて、入居者1人と職員3人が新型コロナウイルスに感染した。感染対策マニュアル及び多摩川病院感染症対策チームの協力・助言により、クラスター発生には至らずに収束できた。感染拡大を防止する際には、感染した入居者及び職員の接触履歴を洗い出して対応することが重要であることを認識した。

令和3年度中に「調布市洪水ハザードマップ」の浸水想定区域となっていることを踏まえたBCP(事業継続計画)を策定できなかったため、令和4年度も引き続き取り組んでいく。

#### (2) コロナ禍における安心で安全なサービスの提供

コロナ禍における行事等の余暇活動については、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用期間中は、少人数もしくはユニット単位で実施した。

敬老の日行事については、入居者から、「普段は生活するところが違う入居者と会える行事もしてほしい」との意見があったことから、感染者数等の動向を確認しつつ、1年9か月ぶりに入居者全員が一堂に会した行事として実施した。

また、家族等の面会方法については、令和3年9月末で緊急事態宣言が解除されたことを踏まえて、11月から面会方法を入居者と面会者が直接対面できるように変更した。面会場所をセミパブリックスペースに限定する等の制限を設けたが、面会を行った家族の中には入居者と会えた喜びの余り、入居者を抱きしめる方もいた。しかしその後、令和4年1月から感染者が急激に増加したことにより、対面での面会は再び中止とした。

### (3) 地域密着型施設としての地域貢献について

令和3年度は、前年度と同様に入居者、老人クラブ及び深大寺保育園との交流行事を実施することはできなかった。

一方で、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用以外の期間は、地域団体に会議室の貸し出しと余暇活動ボランティアを受け入れるなどの地域貢献活動は実施することができた。

また、運営推進会議については、年6回開催のうちの2回は感染状況を鑑みて書面決議とした。運営推進会議では、神代の杜の運営状況等を報告するとともに、委員の地域有識者や地域包括支援センター職員からの情報提供により、地域の課題や実情を把握することができた。特に、令和3年度中は地域団体との関わりが少なかつたため、地域の状況や諸課題について意見交換できたことは貴重な機会となった。

## 2 実績報告

### (1) 給食の状況

検食日誌の内容や給食委員会で出された意見に対し、調理師や各職種と連携をとり改善に努めた。また、季節感や旬の食材を取り入れ、利用者に喜んで召し上がっていただけるような行事食を提供した。今後も安全で美味しい食事の提供を目標に、多職種で協力していく。

ア リクエストメニュー10回、バイキング1回、行事食12回、セレクトメニュー3回を実施し、食事を楽しんでもらうようにした。

イ 利用者の声や検食時の意見、感想、味のチェックなど、その日の献立に対して調理師と話し合い、調理に反映するよう努めた。

特養（介護老人福祉施設。以下同じ）利用者食数

月	朝 食	昼 食	夕 食	月	朝 食	昼 食	夕 食
4	831	832	832	10	894	895	895
5	861	862	862	11	870	870	870
6	825	825	826	12	853	853	853
7	892	891	891	1	881	881	881
8	849	849	849	2	784	784	784
9	804	804	804	3	871	871	871
				計	10,215	10,217	10,218

ショートステイ（短期入所生活介護。以下同じ）利用者食数

月	朝 食	昼 食	夕 食	月	朝 食	昼 食	夕 食
4	25	31	23	10	37	47	37
5	39	49	38	11	44	55	45
6	31	39	32	12	45	54	43
7	36	45	36	1	31	36	31
8	41	53	40	2	21	27	24
9	28	35	28	3	31	43	35
				計	409	514	412

行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショート）

月日	行事名	課名	献立内容
4月 3日 14日 28日	リクエストメニュー	特・シ	桜寿司、かにしゅうまい、じやが芋ベーコン炒め
	リクエストメニュー	特・シ	筍ご飯、ほっけの塩焼き、キャベツと挽肉炒め他
	もりカフェ	特・シ	プレミアムプリン他、飲み物4種
5月 5日	こどもの日	特・シ	グリンピースご飯、チキンカツ、かぼちゃサラダ
6月 9日 16日 16日 22日	もりカフェ	特・シ	プリンアラモード他、飲み物4種
	リクエストメニュー	特・シ	卵とじうどん、大学かぼちゃ、杏仁豆腐
	バーベキュー	特	おやつバイキング（ケーキ、みたらし団子ゼリー他）
	もりカフェ	特	ショートケーキ他、飲み物4種
7月 7日 21日 28日	七夕	特・シ	七夕そうめん、揚げ出し豆腐、お茶福豆
	もりカフェ	特	ショートケーキ他、飲み物4種
	リクエストメニュー	特・シ	うな丼、がんもと野菜の煮物、なます、澄まし汁
8月 8日 16日 25日	リクエストメニュー	特・シ	天ぷら、含め煮、アスパラのお浸し
	セレクトメニュー	特・シ	ちらし寿司、筑前煮、澄し汁、フルーツプリン
	もりカフェ	特・シ	白桃ケーキ他、飲み物4種
9月 20日 22日 23日 28日	敬老祝い	特・シ	にぎり寿司、卵豆腐の澄まし汁
	もりカフェ	特	プリンアラモード他、飲み物4種
	お彼岸	特・シ	おやつにやわらかおはぎ（ミニおはぎ）
	リクエストメニュー	特	鯛の香り漬け、五目野菜の煮物、胡瓜と椎茸和え
10月 4日 20日 27日	リクエストメニュー	特・シ	さつまいもご飯、魚の竜田揚げ、きんぴらごぼう
	リクエストメニュー	特・シ	ふきよせご飯、豆腐ハンバーグ、五目野菜の煮物
	もりカフェ	特	ガトーショコラ他、飲み物4種
11月 18日 24日	セレクトメニュー	特・シ	うな丼、又は鉄火丼、筑前煮、卵豆腐の澄し汁他
	もりカフェ	特・シ	プリンアラモード他、飲み物4種
12月 8日 15日 24日 31日	もちつき	特・シ	お汁粉
	もりカフェ	特	プリンアラモード他、飲み物4種
	クリスマスマニュ	特・シ	ピラフ、鶏肉のソース焼き、がばちゃんサラダ他
	年越し	特・シ	年越しそば、さつま芋のとがお煮、黄桃缶
1月 1日 7日 18日	元旦	特・シ	赤飯、おせち料理、雑煮
	七草	特・シ	七草粥、魚の塩麹焼き、けんちん炒め、ゆかり和え
	リクエストメニュー	特・シ	卵とじうどん、大学かぼちゃ、白菜漬け、みかん

2月3日 19日	節分 リウエストメニュー	特・シ 特・シ	ちらし寿司、大豆とひじきの煮物、きんとき煮豆他 カレーライス、コールスローサラダ、やわらか杏仁
3月3日 15日 21日 23日	ひな祭り セレクトメニュー お彼岸 もりカフェ	特・シ 特・シ 特・シ 特	ちらし寿司、がんもの煮物、お茶福、澄まし汁 うな丼、又はねぎとろ丼、蕗の煮物、オレンジ おはぎ チーズケーキ他、飲み物4種

## (2) 研修の状況

施設外研修の参加状況は、次のとおりである。

No.	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	6月29日	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
2	7月20日	摂食嚥下機能支援研修会	東京都多摩府中保健所	1	1
3	9月9日	事故防止体制再構築の具体策	あいおいニッセイ同和損保	1	1
4	9月29日 ～30日	ユニットリーダー研修	一般社団法人日本ユニットケア推進センター	1	2
5	10月20日	排泄ケア教育プログラム	(株)光洋ディスパース	1	1
6	10月28日 ～29日	ユニットリーダー研修	一般社団法人日本ユニットケア推進センター	1	2
7	11月17日	高齢者権利擁護研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	1
8	2月8日	令和3年度集団指導	東京都福祉保健局	1	1
9	2月25日	排泄支援加算を取ろう	(株)ユニー・チャーム	1	1

研修参加人数合計9人、延べ参加人数合計11人

## (3) ボランティア等の状況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用期間中は、ボランティア活動の受け入れを中止していた。そのため、延べ活動人数が93人減少した。

(単位：人)

活動団体・内容等		人 数	延べ
全般・諸活動	ピアノ・フルート演奏	2	6
	琴演奏	4	24
美化	草取り、樹木剪定、菜園	10	100
	シーツ交換	3	39
合 計		19	169

#### (4) 年齢状況（特別養護老人ホーム・定員29人）

入居者の平均年齢は、91.1歳であり、前年度と比較して0.3歳上昇した。

令和4年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	0	0	0	0
2	65～70歳未満	0	0	0	0
3	70～75歳未満	0	0	0	0
4	75～80歳未満	0	0	0	0
5	80～85歳未満	0	2	2	6.9
6	85～90歳未満	1	8	9	31.1
7	90～95歳未満	4	7	11	37.9
8	95～100歳未満	0	5	5	17.2
9	100歳以上	0	2	2	6.9
合 計		5	24	29	100.0
最高年齢 (歳)		92	103	—	—
最低年齢 (歳)		87	82	—	—
平均年齢 (歳)		89.8	91.4	91.1	—

#### (5) 在籍期間（特別養護老人ホーム）

開設からの入居者は、前年度から1人減少し3人となった。平均在籍期間は、3年7か月となっている。

令和4年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	2	4	6	20.8
2	1年以上～2年未満	1	7	8	27.6
3	2年～3年未満	0	1	1	3.4
4	3年～4年未満	0	2	2	6.9
5	4年～5年未満	1	4	5	17.2
6	5年～6年未満	1	1	2	6.9
7	6年～7年未満	0	0	0	0
8	7年以上	0	5	5	17.2
合 計		5	24	29	100.0

#### (6) 退去状況内訳（特別養護老人ホーム）

令和3年度の退去者数は、前年度の9人から3人減少し6人となった。

令和3年4月1日～令和4年3月31日

No.	性別	年齢	退去月	退所理由	在籍期間	要介護度
1	女	93	4月	長期入院加療	8年7か月	5
2	女	94	5月	長期入院加療	3年1か月	4
3	男	83	8月	長期入院加療	1年9か月	3
4	女	97	10月	長期入院加療	8年2か月	4

5	女	92	12月	長期入院加療	6年10か月	3
6	女	94	12月	長期入院加療	2年7か月	3
平均		92.2	—	—	5年2か月	3.7

#### (7) 特別養護老人ホーム 月別要介護度分布表

令和3年度の平均介護度は、前年度と同様の3.8となった。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	11	13	5	3.8
5	0	0	11	14	4	3.8
6	0	0	12	13	4	3.7
7	0	0	10	14	5	3.8
8	0	0	10	14	5	3.8
9	0	0	10	14	5	3.8
10	0	0	11	14	5	3.8
11	0	0	11	14	4	3.8
12	0	0	11	15	4	3.8
1	0	0	10	15	4	3.8
2	0	0	9	16	4	3.8
3	0	0	9	16	4	3.8
構成比(%)	0	0	35.7	49.1	15.2	100

#### (8) 特別養護老人ホーム 月別利用実績

目標利用率を0.3ポイント下回り、目標以下となったが、前年度より退去者が減り、退去から入居までに要した空床日数が減少したことにより、前年度と比較して1.7ポイント上昇した。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率(%)
4	832	870	95.6
5	862	899	95.9
6	836	870	96.1
7	891	899	99.1
8	849	899	94.4
9	806	870	92.6
10	895	899	99.6
11	870	870	100.0
12	853	899	94.9
1	882	899	98.1
2	784	812	96.6
3	872	899	97.0
合計	10,232	10,585	96.7

(9) 短期入所生活介護（ショートステイ・定員3人） 月別利用実績

利用率については、前年度と比較して0.3ポイント上昇したが、目標を大きく下回った。

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼動日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	7	8	31	90	34.4
5	11	13	52	93	55.9
6	10	11	43	90	47.8
7	11	11	47	93	50.5
8	13	13	54	93	58.1
9	10	10	35	90	38.9
10	10	11	49	93	52.7
11	10	13	56	90	62.2
12	12	12	58	93	62.4
1	9	7	38	93	40.9
2	5	6	29	84	34.5
3	11	12	53	93	57.0
合計	119	127	545	1,095	—
平均	9.9	10.6	45.4	91.3	49.8

(10) 短期入所生活介護（ショートステイ） 月別要介護度分布表

令和3年度は、要介護2及び3の利用者が減る一方で、前年度に利用がなかった要介護4の利用者が大幅に増加した。また、要介護5の利用者も増加し、前年度と比較して8.1ポイント上昇した。

(単位：人) 空床ショート含む

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	17	0	11	3	0	31
5	0	0	26	4	7	12	3	52
6	0	0	18	0	7	14	4	43
7	0	0	32	3	4	8	0	47
8	0	0	35	5	4	10	0	54
9	0	0	25	2	4	1	3	35
10	0	0	26	2	9	9	3	49
11	0	0	23	8	7	10	8	56
12	0	0	27	1	17	5	8	58
1	0	0	8	10	4	5	11	38
2	0	0	10	0	5	10	4	29
3	0	0	16	14	4	5	14	53
合計	0	0	263	49	83	92	58	545
比率(%)	0	0	48.3	9.0	15.2	16.9	10.6	100

### (11) 運営推進会議の開催

神代の杜は地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が義務付けられている。これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するため設置しているものである。概ね2か月に1回の開催が求められている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用期間中は開催を自粛した。調布市から、開催を自粛する場合は運営推進会議委員に文書等で報告・意見照会するよう通知があつたことから、各委員からの意見に対する回答を付して、調布市に報告書を提出した。

	開催日	議題・報告事項
第1回	4月22日	・令和3年度神代の杜事業計画について ・3月～4月の運営状況について
第2回	6月24日	・5月～6月の運営状況について
第3回	8月26日 開催自粛	・7月～8月の運営状況について
第4回	10月28日 開催自粛	・9月～10月の運営状況について
第5回	12月23日	・11月～12月の運営状況について
第6回	2月24日 開催自粛	・1月～2月の運営状況について

### 運営推進会議委員（敬称略）

氏名	選任区分	任期
矢田部 弘行	地域住民代表	令和2年9月1日～ 令和4年8月31日
赤羽 陽子	地域包括支援センター職員	
内藤 敬子	地域有識者	

※ この他に入居者及び入居者家族各1人が委員として加わっている。

## IV 調布市ちょうふの里

### 第1 総 括

#### 1 全体の施設運営

令和3年度は、昨年に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、施設運営の様々な場面で規制の多い年度であったが、職員一丸となって新型コロナウイルスへの対応に取り組んだ。

まず、職員のPCR検査を1か月に1回のペースで定期的に委託職員を含めた職員全員に実施し、検査で陽性反応となった職員はひとりも出なかった。

新型コロナワクチン接種については、1回目の接種を6月17日から開始し、2回目の接種は7月から8月にかけて、希望する利用者、委託職員を含む職員全員にワクチン接種をすることができた。

施設で集団接種したのは、1回目の接種者は、特養利用者88人、職員181人で合計269人であり、2回目の接種者は、特養利用者87人、職員180人で合計267人であった。

3回目の追加接種については、令和4年2月15日から3月3日まで全6日間で特養利用者91人、職員164人、合計255の方へ実施することができた。

令和4年1月に入り、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大と時を同じくして、職員の濃厚接触者や感染者が増えた。

令和3年度において、「濃厚接触者」として自宅待機となった職員は、延べ21人、「陽性者」は11人であった。

感染予防の基本的な対策として「施設に持ち込まない」「施設で広げない」ことを職員一人ひとりが心がけ、同居の家族を含め体調不良が見られた場合は、直ぐに医療機関への受診を促し、検査結果が分かるまで自宅待機をお願いした。

その結果、職員同士の感染や利用者への感染は見られず、施設内での感染拡大を防ぐことができた。

#### 2 外壁・屋上改修工事の対応

事業開始から満25年を迎えたちょうふの里をリニューアルするために、令和3年10月から外壁・屋上の防水工事を実施した。

施設を利用しながらの工事のため、利用者の安全を第一に実施するよう、毎週定期的に工事の担当者との打ち合わせを設けた。また、施設側の状況や工事の工程や詳細などを双方に確認し、共通理解のもとに施工してもらい、打ち合わせで得た情報やその日の工事内容について隨時施設内に周知を図った。

## 第2 経営実績

### 1 目標値に対する実績

特別養護老人ホームについては、退所者が令和2年度より多く21人となった。

また、新型コロナウイルスの影響を受け、老人保健施設等に新規入所者の面接に行けないなど入所までに時間が掛かり、目標値には至らなかった。

ショートステイについては、年間を通して新型コロナウイルスの感染状況が収束しない中でも利用希望者は多く、年間目標値の92%の実績には及ばなかったものの、6年ぶりの90%を超え、利用率は回復傾向にある。

令和2年度同様、更に長引く新型コロナウイルスの影響を受けたのはデイサービスで、通所介護と認知症対応型通所介護の両事業とも利用者のサービスの自粛により利用率は回復しなかった。

居宅介護支援事業については、安定した事業運営ができている。

訪問介護については、登録ヘルパーの雇い入れが進まなかつたものの、新規利用者を積極的に獲得し、サービス提供時間を増やすことができた。

(単位：%)

事 業 名		目 標 値	令和3年度 実 績	令和2年度 実 績
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	利用率	96.0	94.7	95.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	利用率	92.0	91.2	81.4
通所介護 事 業	通所介護 利用率	80.0	67.4	66.1
	認知症対応型通所介護 利用率	75.0	72.8	66.4
居宅介護 支援事業	ケアプラン作成数（月間）	150件	153.0件	146.4件
	予防プラン作成数（月間）	20件	27.0件	31.6件
訪問介護 事 業	サービス提供数（時間／月）	510時間	352.7時間	330.6時間
	障がいサービス提供数（時間／月）	20時間	27.2時間	29.8時間

## 第3 課別事業報告

### 1 管理課

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 安定した食事の提供と環境づくり

給食調理業務の直営化から4年が経過し、安定した業務運営となった。

調理の職員体制については、リーダー的役割を果たしていた職員の退職や早番・遅番パートなどの人員が不足している状況があつたが、調布八雲苑からの人員協力も得ながら、年度の後半には、人員も揃い、体制整備ができた。

また、令和3年6月から届け出が必須になったHACCP（ハサップ）についても、東京都多摩府中保健所や関わりのある業者から情報を得ながら、

適合できるよう準備し、届け出を完了した。

\* H A C C P (ハサップ) とは、給食調理における衛生管理方法の一つで、食材の入荷から配膳までの全工程の中で、食中毒や異物混入の危害要因を把握し、それを取り除くための重要な工程を洗い出し、管理する方法。

#### イ 経費の削減

長引く新型コロナウイルスの影響で、様々な物価の上昇が見られた。

その中で光熱水費については、毎月の使用量管理はしていたものの、急激な基本料金の値上げにより支出が大きく増えた。

また、介護に必要な物品等の価格が高騰し、支出に大きな影響があった。

経費を削減するため、施設が委託している業務の見直しを図り、令和4年度から通所介護の送迎業務を直営にするための準備を進めた。

令和4年度は、一層の経費削減に向けて施設全体で取り組んでいく。

### (2) 実績報告

#### ア 研修の状況

体 系	内 容	回 数
職場研修 施設内研修	① 「新入職員研修」（講師 各管理職） 4月2日 参加者3人 ② 事故防止対策「緊急時の対応について」（福祉課） 9月28日 参加者15人 「事故報告者の記入方法について」（高齢者在宅サービスセンター） 6月18日 参加者19人 「リスクマネジメントについて」（高齢者在宅サービスセンター） 12月10日 参加者14人 「リスクマネジメントについて」（高齢者在宅サービスセンター） 参加者 11人 ③ 「虐待防止研修」 （資料作成 地域包括支援センター職員） 6月下旬 資料配布全職員 ④ 「身体拘束廃止について」 8月下旬 資料配布全職員 「身体拘束廃止及び虐待防止について」（福祉課） 12月27日 参加者10人 1月17日 参加者 6人 計16人 「スピーチロックについて」（高齢者在宅サービスセンター） 8月20日 参加者17人 「スピーチロックについて」（高齢者在宅サービスセンター） 9月16日 資料配布 ⑤ 「職場の安全衛生について」 12月下旬 資料配布全職員 ⑥ 感染症対策研修 「吐しゃ物の処理について」 委員会で動画作成、閲覧方式で実施 「新型コロナウイルス感染対策について」（福祉課） 12月 7日 参加者 7人	23

	<p>「デイサービスにおける新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」(高齢者在宅サービスセンターデイ)      1月中旬 資料配布      「感染症吐しや物の処理について」(高齢者在宅サービスセンター・ショート)      11月29日 参加者 5人      12月 6日 参加者 6人      12月 9日 参加者 6人      「吐しや物の処理の仕方」(地域支援課)      3月23日 参加者 12人</p> <p>⑦ 搾瘻予防対策      「搾瘻予防について」リモート開催      2月15日 参加者 7人      2月下旬 全職員資料配布</p>	
福祉課内研修、勉強会	<p>① 口腔ケア勉強会      11月29日 参加者 13人      12月16日 参加者 16人</p> <p>② 「褥瘻予防と適切なケアについて」      1月 4日 参加者 14人      3月18日 参加者 11人</p>	4
ショート研修、勉強会 (ショートステイ担当内研修)	① 不適切なケアについて 3月17日 参加者 11人	1
デイサービス研修、勉強会 (デイサービス担当内研修)	<p>① 介護技術向上研修「利用者への言葉遣いについて考える」      4月23日 参加者 30人</p> <p>② 介護技術向上研修「認知症の方への対応について」      6月18日 参加者 19人</p> <p>③ BPSDケアプログラム      4月 8日 参加者 9人      5月13日 参加者 9人      6月10日 参加者 10人      8月12日 参加者 10人      9月 8日 参加者 9人      12月10日 参加者 10人      3月10日 参加者 13人</p> <p>*BPSDケアプログラムとは、認知症の行動・心理症状をそれぞれ数値化し、分析、評価しながら個別のケア方針や内容を立てていくプログラム。</p>	9
地域支援課：訪問介護事業所研修、勉強会	<p>① 「家族を含むチームケアの理論と実践」      (オンライン研修) 8月30日 参加者 5人</p> <p>② 「介護現場におけるハラスマントについて」      10月19日 参加者 12人</p> <p>③ 「老計10号1~6見守り援助について」      ~老計10号を踏まえての新しい訪問記録の記入方法      11月16日 参加者 14人</p> <p>④ 利用者別グループワーク「見守り的支援を踏まえた情報共有」 参加者 14人</p>	4
職場研修参加者合計 367人		合計 41回

	内 容	主 催	人 数	延べ
外部研修	配偶者暴力(DV)被害者支援のための基礎知識 (オンライン受講)	東京ウィメンズプラザ	1	1
	大人の発達障がい (オンライン受講)	東京都立多摩府中総合精神保健福祉センター	1	1

介護施設における安全対策担当者養成研修 (オンライン受講)	全国老人福祉施設協議会	1	1
知的障がいがある人の認知症（オンライン受講）	調布市福祉人材育成センター	1	1
福祉職員 階層別研修 新任職員研修	調布市福祉人材育成センター	1	2
介護サービス事業管理者「高齢者虐待防止研修」 (オンライン受講)	東京都福祉保健財団	1	1
介護保険制度改革義務化のポイントと事故防止体制強化について（オンライン受講）	あいおいニッセイ同和損保	1	1
ハラスメント防止等管理者向けリスクマネジメント (オンライン受講)	東京都社会福祉協議会	3	3
ラインケアの基本理解と部下へのかかわり方 (オンライン受講)	東京都社会福祉協議会	3	3
家族を含むチームケアの理論と実践（オンライン受講）	東京都社会福祉協議会	1	1
令和3年度プラチナース就業継続支援事業 施設管理者セミナー	東京都看護協会 東京都ナースプラザ	1	1
第9回認知症疾患医療センター全国研修会 福井大会 (オンライン受講)	認知症疾患医療センター全国研修会	1	1
よくわかる！LIFE活用術「前編」 (オンライン受講)	東京都社会福祉協議会	4	4
訪問介護の実践的・業務継続計画（BCP）セミナー (オンライン受講)	株式会社ロジック	1	1
ハラスメントの実態と対策（オンライン受講）	株式会社ロジック	1	1
よくわかる！LIFE活用術「後編」 (オンライン受講)	東京都社会福祉協議会	4	4
個別機能訓練と加算に関する研修会（オンライン受講）	東京都社会福祉協議会	1	1
高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染症に関する研修会（オンライン受講）	東京都社会福祉協議会	1	1
東京都ナースプラザ研修施設における感染症管理の基本	東京都看護協会 東京都ナースプラザ	1	1
「孤立を防ぎ、つながり続けていくために」研修会 (オンライン受講)	東京都社会福祉協議会	2	2
令和3年度老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修 (オンライン受講)	東京都	4	4
介護事業者のための業務継続計画（BCP）作成セミナー (オンライン受講)	中部産業連盟	2	2
令和3年度 安全運転管理者等講習	東京都公安委員会	1	1
労務管理に関する研修（オンライン受講）	東京都社会福祉協議会	2	2
外部研修参加実人数合計 40人、延べ参加人数合計 41人			

#### イ 実習生等の受入状況

実習生等の受け入れについては、延べ206人となり、昨年度の延べ123人と比較すると増加した。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響から実習中止の学校も多かった。

(単位：人)

学校名等	実習目的	実習先			合計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
都立野津田高等学校	介護福祉士	38			38
公益財団法人東京YMCA医療福祉専門学校	介護福祉士	31	15		46
世田谷福祉専門学校	介護福祉士	20			20
都立多摩職業能力開発センター府中校	介護職員新任者研修	8	8		16
調布市福祉人材育成センター	介護職員新任者研修		3		3
日本福祉大学	社会福祉士	7	11	6	24
日本福祉教育専門学校	社会福祉士	7	11	6	24
調布市福祉健康部福祉総務課	社会福祉士	1	1		2
杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生			20	20
学校法人慈恵大学慈恵第三看護専門学校	地域連携			5	5
東京都福祉保健財団	介護支援専門員			4	4
東京都立府中市けやきの森学園	職場体験		4		4
合 計		112	53	41	206

※デイ・シ=デイサービス及びショートステイ 包=地域包括支援センター

訪=訪問介護事業所 居=居宅介護支援事業所

#### ウ ボランティア等の状況

令和3年度は、毎年恒例であった「ふうりん祭り」や「ボランティア懇親会」を中止するなど、新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、ボランティアの受け入れ総数は、延べ828人となり、令和2年度の延べ692人と比較して増加となった。

(単位：人)

活動団体・内容等	活動先			合計
	特養	デイ・ショート	施設全体	
クラブ・技術指導	書道	14	119	133
	詩吟	6		6
	編み物		98	98
	音楽リハビリ	13	58	71
	クラフトバンド		88	88
	絵手紙		23	23
	美術クラブ		34	34
	陶芸		126	126

	はり絵		48		48
	小計	33	594		627
生活全般	リネン類整理	111			111
諸活動	傾聴		5		5
	朗読	2			2
	マッサージ				
	ドッグセラピー				
	紙芝居	9			9
	活動支援(活動の準備等)		74		74
	新年会				
	敬老会				
	バスハイク				
	音楽会				
	サマー ボランティア				
	ふうりん祭り				
	施設周辺清掃				
	ホーム喫茶				
	福祉祭り				
	小計	122	79		201
	合計	155	673		828

### 工 特別養護老人ホーム 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	2,802	2,806	2,805	10	2,910	2,910	2,909
5	2,937	2,937	2,935	11	2,855	2,855	2,857
6	2,808	2,808	2,809	12	2,937	2,936	2,937
7	2,926	2,931	2,930	1	2,960	2,959	2,960
8	3,004	3,003	3,004	2	2,625	2,624	2,622
9	2,883	2,881	2,881	3	2,780	2,784	2,778
				合計	34,427	34,434	34,427
				1日平均	94.3	94.3	94.3

才 単独型短期入所生活介護 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	402	334	404	10	540	445	535
5	377	310	372	11	486	404	487
6	399	330	399	12	523	427	530
7	440	359	433	1	491	400	496
8	412	343	418	2	439	357	438
9	477	398	478	3	252	213	247
				合計	5,238	4,320	5,237
				1日平均	14.3	11.8	14.3

力 行事食献立一覧 (特=特養、シ=ショートステイ、デ=デイサービス)

月 日	行 事 名	課 名	献 立 内 容
4月 8日 16日 17日 30日	花祭り献立 選択メニュー いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ 特・シ 特	桜寿司、天ぷら、菜の花のお浸し、うどと人参の炒め、果物、おやつ（まんじゅう） 牛丼又は味噌ラーメンから利用者が選択 夕食 いなり寿司 バイキング形式（ケーキ2種）
5月 5日 10日 11日 17日 28日	端午の節句膳 母の日献立 ホーム喫茶 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ 特・シ・デ 特・シ 特	ちらし寿司、天ぷら、若竹煮、おすまし、果物、（おやつ：上生菓子（こいのぼり） 3色ご飯、南瓜サラダ、ほうれん草のスープ、苺のホイップ添え ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、カルビソーダ、ぶどうジュース 夕食 いなり寿司 バイキング形式（ケーキ2種）
6月 11日 17日 28日	選択メニュー いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特	うな丼又はジャージャー麺 利用者が選択 夕食 いなり寿司 バイキング形式（ケーキ2種）
7月 7日 9日 17日 28日 30日	七夕献立 ホーム喫茶 いなり寿司の日 土用の丑 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ 特・シ・デ 特	七夕そうめん、天ぷら、冬瓜のかにあん、果物、（おやつ：やわらか和菓子） ケーキ2種類、練り切り、やきそばパン、りんごジュース、サイダー 夕食 いなり寿司 うな丼、おすまし、果物 バイキング形式（ケーキ2種）
8月 5日 15日 17日 27日	バイキング 終戦記念日 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日 選択メニュー	特・シ 特・シ・デ 特・シ 特・シ 特・シ	巻き寿司バイキング すいとん 夕食 いなり寿司 バイキング形式（ケーキ2種） かき揚げ丼又はかき揚げそば 利用者が選択
9月 14日～ 18日 17日 19日 21日	敬老祝い膳 いなり寿司の日 敬老祝い膳 十五夜献立	デ 特・シ 特・シ 特・シ・デ	赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし（松花堂弁当） (間食) 祝まんじゅう 夕食いなり寿司 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし（松花堂弁当） (間食) 祝まんじゅう 昼 月見うどん 間 月見まんじゅう 夕月見蒸し

22日 24日	お彼岸 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特	おはぎパ'イキング (やわらかおはぎ・あん・ごま・きなこ) バイキング形式 (ケーキ 2種)
10月 17日 21日 29日	いなり寿司の日 秋の味覚パ'イニング お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特	夕食 いなり寿司 松茸ごはん、土瓶蒸し風、さつま汁、柿 バイキング形式 (ケーキ 2種)
11月 15日 17日 25日 26日	ホーム喫茶 いなり寿司の日 寿司バイキング お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ 特・シ 特	ケーキ 2種、上生菓子、ハンバーガー、ホットミルク ティー、ぶどうジュース 夕食 いなり寿司 にぎり寿司バイキング バイキング形式 (ケーキ 2種)
12月 4日 17日 19日 20日 22日 23日 25日 31日	選択メニュー いなり寿司の日 クリスマス会 クリスマス会 冬至メニュー クリスマス会 クリスマスメニュー お誕生日ケーキの日 年越し	特・シ 特・シ シ デ 特・シ 特 特・シ・デ 特・シ	海鮮丼又は鍋焼きうどんから利用者が選択 夕食 いなり寿司 (間食) クリスマスケーキとシャンメリーヌ (昼) 松花堂弁当 (間食) クリスマスケーキとシャンメリーヌ (夕食) 南瓜のいとこ煮 (間食) ゆずまんじゅう (間食) クリスマスケーキとシャンメリーヌ (昼食) 鶏肉の香草焼き、(夕食) ミートローフ (間食) クリスマスケーキとシャンメリーヌ バイキング形式 (ケーキ 2種) 年越しそば (海老天そば)
1月 1日 4日～6日 7日 11日 12日 15日 17日 19日 28日	元旦 新年会 七草粥 鏡開き 鏡開き 小豆粥 いなり寿司の日 ホーム喫茶 お誕生日ケーキの日	特・シ デ 特・シ シ・デ 特 特・シ 特・シ 特・シ・デ 特	おせち料理、雑煮、(おやつ:ねりきり・甘酒) おやつ 干支饅頭 七草粥 おしるこ おしるこ 小豆粥 夕食 いなり寿司 ケーキ 2種類、上生菓子、コロッケパン、カルビス、 リンゴジュース バイキング形式 (ケーキ 2種)
2月 3日 17日 26日	節分献立 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ 特	(昼食) 大豆の煮物、つみれ汁 (間食) 練りきり「鬼」、夕食 恵方巻き 夕食 いなり寿司 バイキング形式 (ケーキ 2種)
3月 3日 10日 17日 18日 24日 25日	ひな祭り献立 ホーム喫茶 いなり寿司の日 お彼岸 にぎり寿司 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ 特・シ・デ 特・シ 特	ちらし寿司、刺身、高野豆腐の煮物、菜の花浸し、果物 ケーキ 2種類、上生菓子、ナポリタンドゥッカ、ファンタオレンジ、レモンティー 夕食 いなり寿司 ぼたもちバイキング (やわらかぼたもち・あん・ごま・きなこ) 夕食 にぎり寿司 バイキング形式 (ケーキ 2種)

※ 朝食は、「ごはん食」か「パン食」の選択メニューを毎日行っている。

## 2 福祉課

### (1) 重点事項への取組

#### ア 利用者の尊厳の尊重

利用者一人ひとりの思いを大切にしたケアプランを作成し、利用者本位の

サービス提供に努め、個々の心身の状況に応じて安心安全な生活支援を多職種が協働して実践することができた。

ちようふの里コンプライアンスマニュアルにある期待する職員像を目指し、利用者の尊厳を尊重して日常の業務を適正に遂行するよう心掛けた。

#### イ 利用者支援の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により戸外での活動が困難な中、季節感のある行事やレクリエーションなど、職員が工夫を凝らした余暇活動を実施することで、日常の中に変化と刺激のある生活の場の提供に取り組んだ。

昨年度施設内で新型コロナウイルスの感染者が発生した際、様々な対策を講じたことを教訓に、感染対策の手引きの刷新と活用を行い、日々のケアの中で常に感染症予防を意識した安全対策を講じた。

#### ウ 職員・人材育成の充実

外部研修ではWEBでの研修を中心に、昨年度より多くの研修に参加することができた。課内研修では、心身機能に応じた適切なケア、緊急時の対応、感染症対応等、演習を中心とした研修を行い、日々のケアの中で実践的に活用できる内容を中心に研鑽を深めることができた。

福祉資格取得のための養成校が年々減少していることや、新型コロナウイルス感染症に伴い学びの形態も変化している中、社会福祉士や介護福祉士などの実習生の受け入れを積極的に行った。

また、各種学校とも情報交換を密に行い、研究発表会など学校で開催しているカリキュラムにも参画し、学校や地域とのつながりを大切に人材の育成に取り組んだ。

#### エ 利用者家族との連携

アクリル板越しの面会スペースにインターホンを設置し、利用者と家族が顔を合わせ、会話ができる環境を整備するなど、感染症対策を講じながら交流できる環境整備を行った。

また、利用者の日々の生活状況や心身の変化について情報共有が図れるよう、カンファレンスの機会を設け、家族との相互理解を深めることができた。

面会の機会が少ない家族にも、電話等で情報提供やケアプラン説明を行い、積極的な情報共有に努めた。

### (2) 実績報告（特別養護老人ホーム：利用定員100人）

#### ア 年齢別利用者状況

平均年齢は87.5歳と令和2年度に比べ0.2歳上昇した。90歳以上のポイント上昇したことが要因となっている。

令和4年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	合計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0.0
2	65歳以上 70歳未満	0	0	0	0.0
3	70歳以上 75歳未満	0	0	0	0.0
4	75歳以上 80歳未満	2	11	13	13.4
5	80歳以上 85歳未満	9	11	20	20.6
6	85歳以上 90歳未満	4	19	23	23.7
7	90歳以上 95歳未満	1	27	28	28.9
8	95歳以上 100歳未満	0	11	11	11.3
9	100歳以上	0	2	2	2.1
合計		16	81	97	100.0
最高年齢 (歳)		92	103	—	—
最低年齢 (歳)		75	75	—	—
平均年齢 (歳)		83.9	88.2	87.5	—

#### イ 在籍期間

平均在籍期間は3年6か月と若干短縮した。5年から10年未満が5.9ポイント上昇したが、1年未満も7.9ポイント上昇した。

令和4年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	合計	構成比(%)
1	1年未満	6	15	21	21.6
2	1～2年未満	2	7	9	9.3
3	2～5年未満	7	35	42	43.3
4	5～10年未満	2	20	22	22.7
5	10年以上	0	3	3	3.1
合計		17	80	97	100.0
平均在籍期間		—	—	3年6か月	—

#### ウ 退所状況

令和2年度に比べ退所者数が増加し21人となり、退所者の平均年齢は1.3ポイント、平均介護度も0.1ポイント上昇した。

No.	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	男	75	4月	調布市	長期入院加療	4年2か月	5
2	女	93	4月	府中市	長期入院加療	1年10か月	4

3	女	95	5月	三鷹市	入院先で死亡	1年 4か月	4
4	男	86	5月	三鷹市	長期入院加療	19年 1か月	4
5	女	99	5月	調布市	入院先で死亡	13年 0か月	3
6	女	84	6月	府中市	長期入院加療	5か月	4
7	男	81	6月	調布市	入院先で死亡	4年 7か月	3
8	男	84	6月	調布市	長期入院加療	7か月	4
9	女	91	6月	三鷹市	長期入院加療	6年 2か月	5
10	女	96	6月	調布市	長期入院加療	5年 8か月	5
11	男	88	6月	三鷹市	入院先で死亡	5年 0か月	5
12	男	94	8月	府中市	入院先で死亡	4か月	5
13	女	96	10月	調布市	入院先で死亡	3年 5か月	5
14	女	89	10月	府中市	入院先で死亡	3年 3か月	4
15	男	86	11月	調布市	長期入院加療	1年 2か月	5
16	女	86	11月	府中市	入院先で死亡	1年 1か月	5
17	女	91	12月	調布市	入院先で死亡	3年 0か月	5
18	男	88	3月	調布市	長期入院加療	3か月	5
19	男	89	3月	調布市	長期入院加療	9年 8か月	5
20	女	91	3月	調布市	入院先で死亡	1年 10か月	3
21	女	93	3月	府中市	入院先で死亡	3年 5か月	5
平均		89.6	—	—	—	4年 7か月	4.4

### 工 月別要介護度分布表

要介護4以上の利用者が約85%以上を占め、特に要介護5が1.4ポイント上昇し、平均介護度は4.3となった。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
4	0	4	13	35	43	4.2
5	0	4	12	35	42	4.2
6	0	4	11	35	43	4.2
7	0	4	11	34	46	4.3
8	0	3	10	36	46	4.3
9	0	3	10	38	46	4.3
10	0	3	9	40	43	4.3
11	0	3	10	39	46	4.3
12	0	2	10	42	46	4.3

1	0	2	10	42	45	4.3
2	0	2	9	43	44	4.3
3	0	2	9	38	49	4.4
構成比(%)	0.0	3.1	10.7	39.5	46.6	4.3

#### 才 月別利用実績

年間利用率は1. 3ポイント目標値に至らず達成できなかった。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利 用 率 ( % )
4	2, 792	3, 000	93.1
5	2, 829	3, 100	91.3
6	2, 696	3, 000	89.9
7	2, 870	3, 100	92.6
8	2, 923	3, 100	94.3
9	2, 860	3, 000	95.3
10	2, 937	3, 100	94.7
11	2, 858	3, 000	95.3
12	3, 040	3, 100	98.1
1	3, 038	3, 100	98.0
2	2, 721	2, 800	97.2
3	2, 995	3, 100	96.6
合計	34, 559	36, 500	94.7

### 3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 新型コロナウイルス感染予防を意識した活動プログラムの提供

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、まん延防止等重点措置が発出されると要支援利用者を中心に「利用控え」や「自粛」に繋がった。

行事においては令和3年度もバスハイクは中止し、運動会はbingo大会への変更を余儀なくされたが、敬老の集いでは、飛沫防止のため、身振り手振りの漫才劇への改編、クリスマス会では飛沫防止パネルを駆使し、歌をプレゼントするなど常に新型コロナウイルス感染症を意識した活動展開を行い、楽しみが奪われないように工夫した。

#### イ 新型コロナウイルス感染予防の強化

オミクロン株の流行は子どもにも拡がりをみせ、職員や利用者のみならず、その家族への感染が多数報告される結果となった。

そのため濃厚接触者となり、通勤ができない職員や通所ができない利用者が増えたが、その度に全利用者、趣味活動講師、ボランティアに至るまで安心して通所していただけるように状況を丁寧に電話説明し、感染拡大の防止に努めた。

#### ウ 介護報酬改定に伴う新設、変更点への対応

介護報酬については、これまで家族会で内容を説明してきたが、新型コロナウイルスの影響で、家族会が開催できなかった。そのため、お知らせを作成し、配布することで介護報酬改定の周知を行った。

#### エ 在宅生活を継続するための支援

令和3年度は長期に利用自粛する利用者が減少したため、自宅でできる体操リーフレット等の配布をせず、全曜日に配置している理学療法士が利用者個々に自宅で行える自主トレーニングメニューを作成し、在宅生活が継続できるように働きかけた。

#### オ 安心・安全の配食と安否確認の実施

配食においても配食利用者、家族の新型コロナウイルスへの感染が多数報告されたが、ケアマネジャーと地域包括支援センターと連携し、なるべく本人と接触しない配達方法を模索し、実施した。

### (2) 実績報告

#### ア 通所介護利用実績（一日の利用定員40人）

年間利用率は令和2年度の66.1%から67.4%と若干、上昇したものの、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響は色濃く残り、年明けからのオミクロン株の流行で、要支援利用者の自粛が増加、利用率が急降下する結果となった。また、令和3年度は家族の新型コロナウイルスの感染で濃厚接触者となる職員が続出し、通所利用の自粛に繋がったことも利用率の低迷の要因の一つであった。

（単位：人）

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数（日）	利用率 (%)
4	737	1,469	228	26	70.9
5	711	1,416	228	26	68.4
6	685	1,365	219	26	65.9
7	749	1,498	242	27	69.4
8	687	1,374	225	26	66.1

9	752	1, 501	251	26	72. 3
10	748	1, 489	244	26	71. 9
11	734	1, 465	251	26	70. 6
12	670	1, 336	231	24	69. 8
1	521	1, 037	196	24	54. 3
2	561	1, 121	218	24	58. 4
3	750	1, 499	286	27	69. 4
合計	8, 305	16, 570	2, 819	308	67. 4
1日平均	27	53. 8	9. 2	—	—

#### イ 認知症対応型通所介護利用実績（一日の利用定員12人）

令和3年度は、認知症対応型においても通所介護同様に新型コロナウイルスの影響は大きかったものの、年間利用率は令和2年度の66.4%から72.8%と6.4%上昇した。

認知症対応型も通所介護同様に濃厚接触者となる職員が出ると自粛に傾くものの、通所再開のスパンが昨年より圧倒的に短くなったことと、毎年一定数いる、冬場に入院してしまう利用者の減少が利用率上昇の要因である。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	226	452	88	26	72. 4
5	226	452	87	26	72. 4
6	238	476	82	26	76. 3
7	252	504	83	27	77. 8
8	237	473	89	26	76. 0
9	242	484	101	26	77. 6
10	247	493	103	26	79. 2
11	241	481	102	26	77. 2
12	213	426	86	24	74. 0
1	159	317	63	24	55. 2
2	177	353	73	24	61. 5
3	234	467	92	27	72. 2
合計	2, 692	5, 378	1, 049	308	72. 8
1日平均	8. 7	17. 5	3. 4	—	—

## ウ 介護保険外（調布市受託）事業利用実績

### (7) 通所入浴サービス

延べ利用者は、令和2年度の110人に対し、令和3年度は103人となり、利用状況はほぼ横ばいで新規、終結者等なく推移した。

### (8) 配食サービス

令和3年度は21,254食と令和2年度より94食の減食と、減食幅は小さくなつた。

(単位：人)

月	通所入浴サービス (1日の定員8人)	配食サービス (1日の食数、昼夕合計200食)
4	9	1, 821
5	9	1, 819
6	6	1, 839
7	9	1, 873
8	7	1, 817
9	10	1, 786
10	10	1, 781
11	8	1, 712
12	10	1, 821
1	7	1, 739
2	8	1, 580
3	10	1, 666
合計	103	21, 254
1日平均	0. 3	58. 2

## エ 通所介護要介護分布表

令和2年度は要介護5の利用者が年間延べ175人であったが、令和3年度は200人に増加し、医療的なケアを必要とする利用者や急激な認知機能の低下、療養傾向の利用者に対応した。

(単位：人)

月	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	33	108	259	229	50	43	15	737
5	0	35	96	250	216	58	39	17	711
6	0	34	84	267	211	43	29	17	685
7	0	37	127	279	219	44	26	17	749
8	0	44	101	254	203	34	29	22	687
9	0	45	104	268	246	45	29	15	752

10	0	48	112	254	245	50	22	17	748
11	0	41	112	253	234	49	26	19	734
12	0	38	102	214	229	41	30	16	670
1	0	24	71	162	178	46	26	14	521
2	0	27	68	177	193	53	29	14	561
3	0	29	95	250	249	72	38	17	750
合計	0	435	1,180	2,887	2,652	585	366	200	8,305
比率(%)	0	5.2	14.2	34.8	31.9	7.0	4.4	2.4	-
1日平均	0	1.4	3.8	9.4	8.6	1.9	1.2	0.6	27.0

#### 才 認知症対応型通所介護要介護分布表

令和2年度は要介護4及び5の比率合計が31.4%であったのに対し、令和3年度も認知症対応型の重度化は進み、医療ニーズの高い利用者や行動・心理症状の増悪、日常生活動作が低下した利用者を積極的に受け入れたことで要介護4及び5の比率合計が33.9%となり、昨年度比で2.5%上昇した。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	26	44	89	28	39	226
5	0	0	28	37	90	28	43	226
6	0	0	24	47	85	38	44	238
7	0	0	32	50	87	38	45	252
8	0	0	28	43	70	53	43	237
9	0	0	30	38	70	56	48	242
10	0	0	44	38	73	41	51	247
11	0	0	46	44	74	36	41	241
12	0	0	42	35	70	30	36	213
1	0	0	34	22	54	20	29	159
2	0	0	40	23	57	10	47	177
3	0	0	53	29	83	16	53	234
合計	0	0	427	450	902	394	519	2,692
比率(%)	0	0	15.9	16.7	33.5	14.6	19.3	-
1日平均	0	0	1.4	1.5	2.9	1.3	1.7	8.7

#### 4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）

##### (1) 重点事項への取組

###### ア 利用者援助の充実

様々な利用者の受け入れを行う中で、職員間の情報の共有を図り、統一したケアが行えるよう課内の会議を毎月実施し、職員の意見交換の場とした。その会議では事故発生後の再発防止に向けた取り組みについての話し合いや日々の業務についての意見交換などを行い、利用者個々に抱える課題解決に繋がった。

###### イ サービスマナーの構築

毎年実施している満足度調査では、職員の態度、言葉遣いについて大半の回答で「丁寧な対応」と評価を得た。今後も同様の回答が得られるよう、利用者一人ひとりに丁寧な言葉遣いや対応を心がけ、より良いケアの提供へ繋げていく。

###### ウ 職員育成

ショートステイ内での課題を抽出し、6月30日に「リスクマネジメントについて」、9月16日に「身体拘束 スピーチロックについて」、11月29日、12月6日、12月9日に「感染症吐しゃ物の処理について」、3月17日に「高齢者虐待 不適切なケアについて」の計4つのテーマで勉強会を実施した。計画、実施にあたり、新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止等重点措置の中で予定どおりに実施することが困難ではあったが、職員個々のスキルアップや日々のケアを見直す良い機会となった。

###### エ 感染症対策

新型コロナウイルス感染がまん延する中、集団生活の中でできる限りの感染症対策として利用者のマスク着用の徹底に努めた。その結果、大半の利用者は共有スペース利用時のマスク着用が定着し、安全安心に利用できる環境づくりを利用者、家族とともに協同で構築することができた。

###### オ 安定した事業運営

引き続き、利用率向上に向け営業活動を積極的に行い、新規利用者の獲得に取り組んだ。初回利用後には担当ケアマネジャーにご利用の様子を報告し、次回への課題など情報提供を行い、継続的な利用に繋げる取り組みに努めた。

##### (2) 実績報告（ショートステイ：利用定員20人）

###### ア 利用実績

新規利用者は令和2年度の60人に対し、令和3年度は57人の契約締結であった。また、廃止利用者は令和2年度の35人に対し、32人とほぼ変わらなかった。

年間を通して新型コロナウイルスの感染状況が収束しない中でも利用希望者は多く、年間目標値の92%の実績には及ばなかったものの、6年ぶりの90%を超え、利用率は回復傾向にある。

(単位：人)

区分	新規利用者	廃止利用者	利用実人数	利用延べ人数	稼動日数(日)	月毎の利用率(%)
4月	6	1	76	560	30	93.3
5月	5	5	71	574	31	92.6
6月	4	6	65	452	30	75.3
7月	6	1	73	569	31	91.8
8月	7	1	76	552	31	89.0
9月	3	1	77	575	30	95.8
10月	3	1	78	610	31	98.4
11月	3	2	76	557	30	92.8
12月	11	4	80	588	31	94.8
1月	4	3	65	574	31	92.6
2月	0	4	57	488	28	87.1
3月	5	5	64	561	31	90.5
合計	57	34	858	6,660	365	91.2

※ 4月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「30人分」を含む。

※ 5月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「24人分」を含む。

※ 7月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「2人分」を含む。

※ 1月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「3人分」を含む。

#### イ 要介護分布表

令和2年度は要支援1及び2の利用者が4.1%に対して、令和3年度は2.4%と1.7ポイントの減少、要介護1から3は令和2年度56.8%に対して令和3年度は51.9%と4.9ポイント減少となった。この中には、認知症による行動障害が見られる利用者が多く、ショートステイでの生活環境に馴染めず不穏症状から緊急退所されるケースが多くみられた。また、要介護4及び5は、昨年度39.1%に対して令和3年度は45.7%と6.6ポイント増加となった。利用者の多くはレスパイト目的であり、施設入所の待機者であるものの、医療的ニーズの高い方で生活の場である施設では受け入れが厳しく長期利用になっている方や虐待やネグレクトのケースで包括、居宅と連携し長期利用となっているケースもある。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	生活支援	合計
4	4	18	90	73	109	154	82	30	560
5	4	0	82	112	111	154	87	24	574

6	4	0	66	62	93	140	87	0	452
7	4	13	101	67	139	158	85	2	569
8	4	9	92	68	119	160	100	0	552
9	4	0	90	79	147	164	91	0	575
10	4	18	108	80	140	172	88	0	610
11	4	1	127	55	130	148	92	0	557
12	4	10	93	40	154	191	96	0	588
1	5	14	80	54	130	192	96	3	574
2	4	23	36	74	121	150	80	0	488
3	4	7	93	58	151	174	74	0	561
合計	49	113	1,058	822	1,544	1,957	1,058	59	6,660
比率	0.7%	1.7%	15.9%	12.3%	23.1%	29.4%	15.9%	1.0%	100%

## 5 地域支援課

### (1) 重点事項への取組

#### ア 地域包括支援センター

##### (イ) 新担当圏域を担うメイン・サブセンターの運営

令和2年度の移行期間を経て、令和3年4月1日から上石原3丁目に地域包括支援センターサブセンターへ4人のスタッフを配置し開設となつた。基本三職種（社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師等）は、メイン・サブセンター担当者が協同により専門性を高め、見守りネットワーク事業・認知症地域支援推進・医療福祉連携強化は、担当者を中心に事業の強化を図った。

##### (イ) 総合相談支援業務の充実

高齢者の総合相談窓口として、多様化する相談に対応できるよう「包括的・継続的ケアマネジメント」、「虐待防止・権利擁護」、「介護予防支援」などの地域包括支援センターの基本的な機能に加え、「認知症支援・医療福祉連携」について、プランナーを含め、メイン・サブセンターの全スタッフが協同し総合相談事業を行つた。新たな担当圏域について、見守りネットワーク季刊誌を3回発行し、福祉・医療の関係機関や地域住民等に対し、サブセンターの設置についても説明・PRを行つた。

また、総合相談に対するスキル向上のため、感染予防に配慮されたオンライン研修を80件受講した。

##### (ウ) 関係機関との連携強化

「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みについては、地域包括支援センターが中核となって、「地域ケア会議」や「関係者会議」を企

画・開催した。新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、地域ケア会議・関係者会議をはじめ、他の包括との専門職部会の会議も、オンラインホスト（主催者）としてZOOMで行った。実際の支援困難ケースや医療依存の高いケースへの協働支援を通じて、地域の医療や福祉機関との他職種連携の強化を図ることができた。

#### イ 居宅介護支援事業所

##### (ア) 収支の安定と体制強化への取組

併設の地域包括支援センターと連携して、新規利用者の獲得を迅速に行った。中でも地域包括支援センターから虐待が疑われる困難ケースの相談があったときは、情報共有や連携を取ったうえで、意欲的に担当した。また、特定事業所加算Ⅱの加算取得に伴う「ひとつ上の事業所」を目指して、加算取得に必要な算定要件を遵守しケアマネ会議を活用しながら質の高いケアマネジメントを実施した。

##### (イ) 介護支援専門員の質の向上

新型コロナウイルスの継続的な感染拡大に伴い、予定していた研修や学びの場に集まることはことごとく中止となったが、積極的にオンライン研修に参加して知識や技術の向上に努めた。また、介護保険法改正後の変更点なども正確に情報共有して利用者が混乱しないように説明を行った。

#### ウ 訪問介護事業所

##### (ア) 人員の確保と育成

年度始めに、サービス提供責任者、嘱託ヘルパー及び登録ヘルパーの募集を行い、サービス提供責任者はすぐに入職したが、年度途中で1人が入れ替わった。また、年度末までに登録ヘルパーは2人の入職、嘱託ヘルパーについては、2人の面接を行ったが入職に繋げることはできなかった。それでも、ヘルパー会議を活用して、まず訪問介護の原点でもある「自立支援」について全員で再認識を行い、「訪問介護のあるべき姿」などヘルパーの意識改革を繰り返し行った。その結果、ヘルパーたちの士気が上がり「訪問介護の在り方」に対して一人ひとりが意識するようになった。

##### (イ) 経営・運営体制の抜本的な見直し

日々の業務や援助内容の見直しなど、今まで行ってきた全ての業務の見直しを行い、変更や改善が必要な個所を洗い出し、計画的に改善を行った。何より「自立支援」を意識した援助内容に見直しを行ったことが、大幅な収支増に繋げることができた。

## (2) 実績報告

### ア 地域包括支援センター 区別別相談件数

地域性から「来所」の相談数は比較的に少ないが、電話相談後すぐに「訪問」することで住環境を含めた生活実態の把握ができた。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	280	265	303	349	320	322	331	365	399	453	343	413	4,143	345.3
来所	39	37	51	48	43	51	60	44	49	33	26	42	523	43.6
訪問	208	125	116	128	137	103	131	154	145	106	113	132	1,598	133.2
その他	12	11	5	6	11	10	6	10	13	12	12	21	129	10.8
合計	539	438	475	531	511	486	528	573	606	604	494	608	6,393	532.8

### イ 地域包括支援センター 相談内容別件数

「保健医療」の相談については、医療機関側の「入退院連携加算」もあり、医療機関から入院時の相談が増えている。

「介護相談」、「認知症相談」では、「経済・住宅問題」も並行して問題を抱えているケースが増えている。

また、家庭不和や精神疾患・障害のある家族を抱えるケース等の「家族問題」については月平均約25件あり、介護相談はより複雑になっている。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健医療	165	147	168	189	161	148	132	183	181	204	160	229	2,067	172.3
介護保険	122	113	128	150	122	145	155	156	156	46	162	190	1,645	137.1
予防給付	214	150	156	166	199	153	182	206	220	193	171	164	2,174	181.2
総合事業	95	84	80	88	108	100	86	108	110	74	73	81	1,087	90.6
77枝支援	7	15	6	19	6	15	18	13	9	8	4	13	133	11.1
介護相談	9	8	16	11	6	14	14	13	19	26	13	26	175	14.6
認知症相談	12	10	25	19	15	22	24	31	18	27	12	34	249	20.8
経済・住宅問題	26	19	17	17	18	14	16	22	18	24	19	13	223	18.6
家族問題	21	9	18	28	15	30	29	23	23	24	36	37	293	24.4
権利擁護(成年後見)	12	2	3	4	3	4	5	6	10	7	12	12	80	6.7
権利擁護(健常・その他)	0	2	4	2	5	2	8	3	2	2	9	12	51	4.3
その他	97	77	90	112	81	87	81	84	113	93	77	103	1,095	91.3
合計	780	636	711	805	739	734	750	848	879	728	748	914	9,272	772.7

#### ウ 地域包括支援センター 調布市一般施策相談件数

「紙おむつの給付について」は利用要件が要介護3以上ベースのため相談件数、申請数ともに昨年度同様、大きく減っているが、在宅介護の重度化で防水シーツの申請が多かった。

配食サービスについては、民間事業所の自由度の高いサービス（副食のみでも配達可能、選択メニュー、翌日から変更可能など）や付加サービス（買い物サービスの併用・安否確認機能など）により、民間サービスを選択する利用者が増えている。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食	8	9	2	5	2	6	2	4	0	4	2	3	47	3.9
日常生活用具	8	8	6	4	3	7	6	5	12	4	6	10	79	6.6
おむつの給付・助成	10	12	9	10	16	10	11	23	7	16	23	19	166	13.8
緊急通報システム	9	4	4	5	5	8	9	9	7	9	5	8	82	6.8
徘徊探知器	3	2	0	1	0	0	2	2	3	4	1	2	20	1.7
その他	7	5	2	5	6	3	3	9	13	14	1	9	77	6.4
合 計	45	40	23	30	32	34	33	52	42	51	38	51	471	39.3

#### エ 地域包括支援センター 実態把握件数

月平均約92.3件の実態把握を行った。新規相談に対しては迅速に訪問し、ニーズの確認やサービス調整等の実態把握を行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	125	99	85	86	98	77	94	120	89	69	79	86	1,107	92.3

#### オ 地域包括支援センター 見守りネットワーク 連絡件数

通報は、隣人・知人からが最も多く、次いで民生委員によるものが多かった。最近は商店からの通報も増えている。

P R活動として、地域包括支援センター圏域変更と、サブセンターの開設について広報紙を年3回発行し、市民・地域の関係機関に配布した。飛田給小学校、石原小学校、調布中学校、第五中学校、イトーヨーカドー社員に対する認知症サポートー養成講座や、介護教室・介護予防等の住民講座でも「みまもっと事業」のP Rを行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通 報	5	5	13	4	5	5	3	3	5	6	2	4	60	5.0

**カ 地域包括支援センター 予防プラン作成数**

(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)

予防プラン作成は、センター業務の半分近いウエイトを占めている。

福祉用具貸与や訪問看護のサービス併用者は多く、「介護予防支援」のプランが総合事業単体の「介護予防マネジメント」を大きく上回っている。

**(7) 介護予防支援**

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	108	112	104	100	104	106	113	117	117	117	123	119	1,340	111.7
委託作成	40	40	40	38	39	39	38	36	38	38	37	37	460	38.3
合計	148	152	144	138	143	145	151	153	155	155	160	156	1,800	150.0

(委託率 25.5 %)

※ 「介護予防支援」は、総合事業に加え、訪問看護、福祉用具貸与等を利用するプランもしくは、訪問看護、福祉用具貸与のみ利用するプラン

**(1) 介護予防マネジメント（総合事業対象者を含む）**

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	77	83	81	84	82	85	91	88	89	89	84	82	1,015	84.6
委託作成	38	37	39	32	35	35	35	35	36	36	34	36	428	35.7
合計	115	120	120	116	117	120	126	123	125	125	118	118	1,443	120.3

(委託率 29.6 %)

※ 「介護予防マネジメント」は、総合事業（通所介護、訪問介護）のみ利用するプラン

**キ 居宅介護支援事業所の居宅サービス計画書作成件数**

令和2年度の2,136件と比較すると19件増加し、年間2,155件となった。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	178	176	183	178	179	179	183	178	190	184	172	175	2,155	179.6

**ク 居宅介護支援事業所の要介護・要支援認定調査件数**

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で認定調査についても、「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取り扱い」が主流となり、調査件数は大幅な減少となったが、令和3年度は徐々に認定を見直す傾向が

見受けられ、31件の増加となった。

※ 「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取り扱い」とは、更新申請の方で感染拡大防止を図る観点から面会が困難なことにより訪問調査が行えない被保険者が申請することにより、従来の介護度の有効期間を12ヶ月延長するもの。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	5	3	5	1	8	5	6	8	9	6	4	8	68	5.7

※ 施設認定調査含む

#### ケ 訪問介護事業所の訪問介護派遣状況

介護保険派遣時間はヘルパーの人数に変動はないものの、新規利用者の積極的獲得を行ったため、前年度比で110%のアップとなった。逆に障害サービス派遣時間は前年度比91%と減少がみられた。要因としては、買い物同行援助がネット注文になるなど、環境の変化により訪問介護が不要となつたケースが2件あった。

ただし、令和3年度は介護保険援助内容の見直し（生活援助→身体介護）に着手したため、援助時間以上に収支を伸ばすことができた。

(単位：時間)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
介護保険派遣時間	302	273	289	304	310	324	362	375
障害サービス派遣時間	35	34	29	28	29	30	26	23
介護保険外派遣時間	22	6	10	10	10	29	17	7
訪問介護派遣時間合計	359	313	328	342	349	383	405	405

(下段に続く)

区分	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護保険派遣時間	392	361	371	419	4,082	340.2
障害サービス派遣時間	28	25	21	18	326	27.2
介護保険外派遣時間	19	4	6	10	150	12.5
訪問介護派遣時間合計	439	390	398	447	4,558	379.8

※ 派遣時間については、分の単位30分以上を切り上げて1時間とし、30分未満は切り下げて計算している。

## V 上布田保育園

### 第1 総 括

令和3年度は新型コロナウイルスオミクロン株の流行に伴い、子どもへの感染拡大が見られ、更なる感染予防対策への取り組みと、感染者が出た時の対応に追われた一年となった。その状況下でも子どもの育ちを保障していくことを第一に考え、子どもの主体的な活動に寄り添い、遊び環境の整備、保育の質の向上に取り組み、保護者支援に丁寧に向き合ってきた。特に行事が縮小されたり、保育士体験の休止等で保育園に足を運ぶ機会が少なくなった保護者においては、保護者同士の関係が希薄となり、子育ての孤立化が見られることに危機を感じ、保護者交流を主としたZOOM懇談会の開催や、感染予防対策を施した上で保育士体験の再開に取り組んだ。子どもたちが育っていく中で、たくさんのおとなが子育てに関わり、卒園後も地域で子どもの育ちを見守っていく基盤作りを保育園時代に行っていくために、今後も積極的に保護者同士の繋がりを深めていくことに取り組んでいく。

保育園運営においては、令和3年度から公私連携型保育所へ移行し、民設民営となったことを機に、保護者とともに園の「園名プレート」の作成に取り組んだ。保護者、職員の有志で構成するプロジェクトチームのメンバーを募り土曜日ごとに活動し、園のイメージや使用する素材、デザイン等全てを一から一緒に考えた。上布田保育園をイメージした「自然」を取り入れ、木のプレートに保護者のデザインした園名を焼印し、緑の葉や桜の木の絵を彫り込んだ。桜の花には年長児が指で色付けをし、22個のピンクの花を咲かせた。大型修繕工事できれいに生まれ変わった園舎や外壁と同じ時期に完成し、園の入口に掲げることができた。保護者とともに作り上げた園名プレートは、「東京かたばみ会上布田保育園」としての一歩を踏み出す大きな意味があったと感じた。今後も子どもたちの育ちを保護者とともに見守り、豊かな自然あふれる園作りに力を注いでいきたい。

### 第2 経営実績

#### 1 定員

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	10	12	18	22	22	90
実数	8	12	14	20(2)	22(1)	22(1)	98

※( )内は、障がい児の受入れ数

#### 2 利用率

(単位：%)

事業名	令和3年度 実績	令和2年度 実績
上布田保育園	108.9	108.5

### 第3 事業報告

#### 1 重点事項への取組

##### (1) 子どもの遊びからの学びの保障

子どもたちの「やってみたい」という気持ちから遊びが生まれ、職員はその遊びが発展していくためのサポートに力を注ぎ、子どもと一緒に楽しみながら遊びを深めていった。子どもたちの豊かな発想を見逃さないように観察し、それを職員同士で情報共有し、遊びが持続すること、発展すること、学びに繋がっていくことを大切にしてきた。子どもたちが遊びを深めていく中で、成功や失敗、友だちと協力すること、達成感を味わうことなどの経験を積み重ね、それぞれの育ちへと繋がっていった。

また、園庭遊びを軸に、年齢関係なく遊びが繰り広げられ、自然と異年齢での遊びの共有や継承していく場面が見られることが増えた。子どもたち同士で育ち合っていく環境も整ってきたと手ごたえを感じた。

##### (2) 豊かな育ちをサポートできる保育環境の整備

園庭遊びが充実していくように、園内研修で東洋大学の高橋健介准教授からのアドバイスを受けながら遊びが発展していくための道具の補充を行い、その道具を使って遊びがどう発展していくかを検証した。今後も道具の補充、遊びの検証を続けていくことで、充実した保育環境作りに繋げていきたい。

また、職員と保護者の有志が「棚作りプロジェクト」を組み、子どもたちが遊びで使用する棚作りに取り組んだ。コロナ禍で思いのほか完成までに時間を費やしたが、年度末には完成し設置することができた。今後は、作りかけの泥だんごや集めた木の実や葉っぱを置いたり、捕まえた虫を飼育することに活用したりしていく予定である。

2階テラスの改裝計画については、大型修繕の際に楕円形のラインを描いてもらい、コンビカーで走る線路ができあがった。今後、人工芝やウッドデッキ、築山を設置していく予定で計画を進めている。

##### (3) 職員がいきいきと働きやすい職場環境の整備

職員が保育に楽しみながら向き合い、保育への関心や学びを深め、子どもたちの育ちについて語り合える職員集団作りを目指し、令和3年度から東洋大学准教授の高橋健介氏をアドバイザーとして招き、園内研修を行った。それぞれのクラスの午前中の保育を撮影し、子どもの遊びや職員の関わり方について動画を観ながら保育について語り合う時間を持った。他の職員の保育を観て刺激を受けたり、子どもの育ちを皆で確かめ合ったりするいい機会となった。

職員の事務軽減や仕事の効率化においては、システムへの移行がなかなか進まず、課題は次年度へと持ち越しとなっている。

また、職員の人材確保を行っていくための取り組みとして、ホームページの

求人サイトの充実や、求人用パンフレットの作成に取り組み、どちらも完成に至った。今後はこれらを活用し、計画的に求人活動に取り組んでいく。

#### (4) 保護者支援、地域の親子への子育て支援の充実

前年度は新型コロナウイルスの感染拡大により行うことができなかつた保育士体験を12～1月に再開した。再開の要望が多かっただけあり、感染予防対策のため人数の制限をしたものの、多くの保護者の参加があった。参加してもらったことで、保育士との距離が縮まり、園生活への理解へと繋がった。また、子育てで困っていることを聞き取ることもでき、対面でのコミュニケーションの大切さを実感した。

また、保護者と子どもの育ちを共有することで見通しを持った子育てへのサポートに繋げていけるように、日々の様子を写真を使ってこまめに発信し、子どもの育ちが実感できるように工夫した。

地域の親子への子育て支援は、コロナ禍での地域交流事業について検討を重ねたものの、実施にまで至らなかった。次年度は、コロナ禍でも行えることを模索し、取り組んでいきたい。

## 2 実績報告

### (1) 園児の受入状況

月別の園児受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	4歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	3歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	1,176

### (2) 地域の子育て支援

#### ア 保育園体験

地域の親子を対象に、0歳児、1歳児、2歳児クラスに各5組ずつ受け入れ、月1回在園児と一緒に活動に参加する「保育園体験」を行い、園児、担任との交流や、誕生会への参加も検討していたが、昨年と同様にコロナ禍により開催できなかった。感染状況が落ち着いた時期に、園庭限定で（雨の日は室内となるため中止）3組までという人数制限をした上で開催する方向で話し合いを進めたが、再び感染が拡大し、まん延防止等重点措置が適用されたため実現できなかった。この先も感染状況が不透明ではあるが、地域の子育て支援の必要性を認識し、どのような取り組み方が可能かを検討していく。

## イ 納食体験

### (7) 離乳食体験

初めて離乳食を始める地域の子育て中の親を対象に、栄養士、保育士による離乳食開始時期の目安、初期食、中期食の進め方、実際の調理方法、試食などを学んでもらう機会としていたが、新型コロナウイルスは主に食事や会食での感染率が高いこともあり、令和3年度も中止とした。地域の保護者からの要望は多くあり、開催可能な方法を検討していく。

### (1) 乳児食体験

地域の乳児とその親を対象に、給食を園児と同じ環境で一緒に食べる機会としていたが、離乳食体験と同様に主に食事や会食での感染率が高いため、令和3年度も中止とした。

例年は、乳児食の味つけや量を体験するほか、食事の環境設定や食具についても情報提供を行っており、参加希望者は多いため、今後も開催可能な形を検討していく。

### (2) 保育講座

親子が20人ほど集まる講座を中心であり、室内での講座が主であったためコロナ禍により開催は中止とした。毎年親子で楽しめる講座を中心に内容を検討しているが、集まらなくても楽しめるもの（紙ベースでの情報の提供など）を検討していく。

## (3) 園児の健康報告

### ア 感染症

令和3年度は7～8月にかけて発熱と咳で欠席をする園児が多数おり、保健所に報告を行った。また令和4年3月には8人の園児が新型コロナウイルスに罹患した。園内では引き続き感染予防対策に努め、幼児クラスにおいては食事時のパーテーションの使用、室内遊び時のマスク着用（任意）等の対策を行った。また、手洗いの徹底や消毒方法の見直しを行い、園内の感染予防に努めた。体調不良の子どもについては、早めに保護者と連絡を取り合うようにし、体調の変化にいち早く対応できるように努めた。

#### 【感染発生状況】

（単位：人）

水痘	0	流行性耳下腺炎	0
溶連菌感染症	0	突発性発疹	2
伝染性膿瘍疹	0	アデノウイルス	1
感染性胃腸炎	2	嘔吐・下痢症	10
新型コロナウイルス感染症	8		

### イ 受診状況

令和3年度は受診した園児は6人であった。口腔内を打撲する園児が多く、

歯科受診件数が4件であった。

【受診ケース】

月 日	性別・年齢	項 目	受 診 先
4月 14日	5歳女児	捻挫	整形外科
4月 21日	3歳男児	口腔内打撲	歯科受診
6月 10日	3歳男児	爪打撲	整形受診(計4回)
7月 1日	2歳男児	口腔内打撲	歯科受診
7月 18日	4歳男児	口腔内打撲	歯科受診(計2回)
9月 22日	5歳男児	肘打撲	整形外科受診
9月 27日	3歳女児	口腔内打撲	歯科受診(計2回)
12月 17日	4歳男児	口腔内打撲	歯科受診
12月 21日	1歳男児	熱性痙攣	救急車で大学病院受診

ウ その他

令和3年度も園医による健康診断を0歳児は毎月、1～5歳児は年に2回受診できるよう設定した。

歯科健診は年2回の予定であるが、新型コロナウイルスの影響により1回のみとなった。歯磨き指導は、歯科衛生士による指導が1回、看護師による指導が1回であった。

前年度実施できなかった尿検査は、令和3年度は実施できた。

職員研修としては、手洗い研修・嘔吐処理研修・救急救命研修等を行い、園児たちが保育園で健やかに安全に生活できるように努めた。

【実施できた保健活動】

検査名	時期	人数	結果
尿検査	6月	60人	1人陽性
歯科健診	5月	90人	虫歯あり3人
歯磨き指導	6月	57人	染めだしは実施せず
歯科健診	10月	中止	虫歯あり6人
歯磨き指導	11月	59人	染めだしは実施せず

(4) 障がい児保育

令和3年度の障がい児受け入れは、3歳児2人、4歳児1人、5歳児1人の計4人であった。前年度はコロナ禍のため受け入れできなかつた子ども発達センターに通う子どものための交流保育は、令和3年度も引き続き中止となった。

ア 作業療法士との連携

生活、活動の中での様子、検討したことなどを個人記録としてまとめ、

作業療法士に目を通してもらい、月1回の来園時にその記録を基に子どもの様子を観察してもらった。その後のケース会議にて専門的な視点で子どもへの支援方法、指導の仕方等のアドバイスを頂き、日々の保育に活かした。

#### イ 保護者対応

保護者からの要望や希望があるときは、職員を通して作業療法士への相談等も受け、子どもにとって最善の支援を一緒に考えていくようにした。

#### ウ 関係機関との情報共有

必要に応じて、関係する療育機関と連絡を取り、お互いの状況を把握する中で、日々の保育に活かせるようにした。

### (5) 年間行事報告

1年間に実施した行事は、次のとおりである。

月日	項目	内容
4月1日	入園進級式 (新入園児の保護者参加)	晴れた空のもと、園庭の桜の木の下で実施し、一年の始まりを皆で喜び合った。新入園児の保護者を招き、新入園児一人ひとりを紹介した。進級児が歌やダンスをプレゼントし、温かい雰囲気の中で実施することができた。
5月15日	青空おやこで懇談会	例年は「ふれあい遠足」として、園外へ出て弁当持参で集い、園児・保護者・職員とがふれあい、交流を深めるための会をこの時期に催してきたが、コロナ禍で大勢での外出・会食が難しいこともあり、目的は変えずに、園内を使って、密を避けて懇談できることを目指し計画した。しかし残念ながら、緊急事態宣言が発令されたため、中止となつた。
6月22日	プール開き	曇り空で気温も低めだったため、プールには入らず、プール開きのみ行つた。5歳児のみ浅く水を張ったプールでプール用玩具を洗い、今後のプール遊びの準備をし、3,4歳児はプールの柵越しにその様子を見学し、その後周辺で水遊びを楽しんだ。
7月14~16日	夏祭り3days (父母会共催)	前年度は保護者の来園はかなわなかったが、父母会共催行事として、令和3年度はコロナ禍でもどのように保護者も参画してもらい、子どもたちと保護者・職員皆が楽しみに当日を迎えるか、父母会と共に話し合いをしながら準備を進めてきた。5歳児クラスの手作りのお店や紙で作ったダブルポテト屋、そのほかゲームのコーナーなど、一日ごとに新しいお店が増え、毎日遊びを発展させながら祭りの余韻をいつまでも楽しむことができた。 本年度も前年同様に、当日のお買い物ごっこを楽しむ買い物バッゲづくりを保護者にお願いした。加えて、準備の段階のドキュメンテーションで夏祭り準備中の保育園の様子を伝えながら、保護者にも手作りおもちゃ作りの協力を募った。家庭で子どもたちと一緒におもちゃ作りをしながら、夏祭りに向けてより期待を持って下さる保護者が多くいた。 また、父母会からの提案で「ヨーヨー釣り屋さん」を父母会で準備してもらい、出店することになった。蔓延防止措置が発令されたことで保護者の来園はかなわなかったが、その代わりにと、父母会から手作り風鈴を飾ることも提案してくださり、子どもたちのために、保護者と職員とで会と一緒に盛り上げていこうという目的は達成できたのではないかと感じる。
7月30日	お泊まらない保育	本来は「お泊まり保育」として実施してきたものだが、令和3年度も宿泊はせず、金曜日一日を使って、朝から夕方まで、5歳児クラスのやりたいことを存分に楽しむ日として設定した。子どもたちのたっての希望であった「カニ山散歩」をメインに企画したが、当日の猛

		暑と天候が不安定だったことから行き先も変更となるが、夕飯もりクエストメニューのカレーを皆で食べ、食後のお楽しみ時間も堪能し、特別な一日を過ごすことができた。
8月30日	プール仕舞い	密を避けるため、3、4歳児はそれぞれ水遊びを楽しみ、5歳児はプール遊びを楽しんだ後、ひと夏使った玩具を洗って終了となった。
10月4日	かみふだうんどうかい	前年度中止したが、職員間で話し合いを重ね、子どもの育ちを見据え、幼児クラスを中心に皆が楽しめる会としての実施をめざし、子どもたちと話し合いながら企画し、準備を進めてきた。 「ふれあい」「子どもたちの関わり」「縦割り保育での関係作り」を伝えることを目的に普段の保育の延長と考え、秋の保育の中でのイベントとして平日に開催した。本年度は密を避けるため、5歳児の保護者のみ参観可として開催し、他の保護者へは、会当日まで経過を、色々なコーナーごとにドキュメンテーションを作り掲示して伝え、当日の様子もダイジェスト版を作成し、掲示した。 乳児クラスについても同様に、秋の保育緒経過を紙面にて伝えることで、子どもの今の育ちを保護者と一緒に喜び合える機会とした。
10月1日～	秋のたて割り散歩	例年は幼児クラスの園外保育を実施していたが、本年度は乳児を含めた園全体での縦割り散歩を楽しむ期間として実施した。 幼児クラスはそのうちの一日をお弁当の日とし、皆で園庭での弁当を楽しんだ。
11月5日	いも煮会	「秋の味覚を皆で味わう会」として、2～5歳児は簡単な調理体験を通して、皆で給食の豚汁づくりの手伝いを行った。給食は皆で久しぶりに園庭で会食をした。調理から関わり、楽しい雰囲気の中での給食時間になった。
11月9日	いも掘り	幼児クラスが縦割グループに分かれ、芋掘りを行った。本年度は天候に恵まれず、時期が少し遅くなつたが、大きな芋をたくさん掘ることができた。
12月10日	もちつき	新しい年を迎える前に餅をつくことの意味を伝えながら、餅つきを体験した。本年度は有志の保護者2人に「モチレンジャー」として手伝いして頂き、一緒に子どもたちを盛り上げてもらった。子どもたちは子ども用の杵を使い、自分たちでつく楽しさを味わった。感染症対策のため、本年度は子どもたちがついた餅はその場で食せず、のし餅作りの体験をした。
12月24日	クリスマス会	前年度からの続きで、サンタクロースが忘れていった帽子を取りに来ることになり、クリスマス前に手紙が届くところから始まった。当日はクリスマスの製作遊びや、子どもたちの作った紙芝居や人形劇、職員の出し物などを楽しんだ。サンタクロースも登場し、お礼に子どもたちから歌のプレゼントもした。
1月7日	新年会	昔から行われてきた伝承遊びやお節料理の意味など、新年についての日本の伝統を子どもたちに伝えた。 その後、園庭や室内でたこあげ、独楽回し、カルタ、福笑い、すごろくなど、正月ならではの遊びをみんなで楽しんだ。
1月28日	人形劇 (父母会共催)	毎年来園して下さる人形劇団が今年度は活動見合せとなり、代替えとして、1月を「劇遊びを楽しむ月間」として、パネルシアター やエプロンシアターを父母会と一緒に購入し、子ども達と楽しんだ。
2月1～4日・8・9日	クラス懇談会	なかなか保護者同士が交流する場が作れなかつたが、今回は密を避けつつ実施できる方法として、初めてオンラインでの実施を試みた。保護者の参加も多く、1年間を振り返る良い機会となつた。
3月20日	就学を祝う会	本年度も在園児の参加を見送り、密を避け、卒園児保護者の参加スペースを確保するため、休日の実施にした。就学児、在園児(3、4歳児)、職員みんなで思いを込めて会場作りをし、無事当日を迎えることができた。新型コロナウイルス対策による制限がある中での開催とはなつたが、子ども、保護者、職員が一体となって就学する喜びを分かち合うことができた。当日体調を崩して参加ができなかつた園児が2人いたが、オンラインでつなぎ自宅から参加してもらうことで、一緒に対面でお祝いすることができた。

3月23日	お別れ会	就学を祝う会当日に在園児が参加できなかつたので、4歳児が企画・運営をし、「さくらさんとお別れする会」を実施した。5歳児は就学を祝う会で行った歌や言葉を在園児の前で披露し、3・4歳児からも歌と言葉を贈った。5歳児からの卒園製作(砂場用机)と、在園児からのプレゼント(チューリップの鉢植え)の交換も行い、温かみのあるとても良い会になった。 また、就学を祝う会当日に来園できなかつた2人の卒園児に、保護者も招き、改めてこの場で証書を授与した。
定例	誕生会	その月生まれの園児、保育園体験の子ども達の誕生を皆で祝うこと、大きくなった喜びを共感しあつた。誕生児の保護者が参観することが定着してきており、一緒に大切な一日を過ごすことができた。
定例	伝統行事	子どもの日、七夕、節分、ひな祭りなど季節の伝統行事において、それぞれの意味、内容について話を聞いたり、製作や歌を歌つたりして楽しんだ。

#### (6) 研修の状況

令和3年度は、外部への研修の機会も、オンラインで開催される機会を多く利用することで、昨年度よりも参加することができた。

また、令和3年度は引き続きこれまで積み上げてきた園内研修の充実を更に図ることを目指し、年間を通して実施した。定期的にアドバイザーを招き、「子どもの遊びと保育環境」にスポットを当て、日中の保育の様子を動画で撮影してもらい、幼児クラス・乳児クラスの2グループに分かれて動画をもとにグループワークを行う形での勉強会を行つた。日頃の保育について語り合える機会にもなり、今後子どもたちを取り巻く環境を見直す良い機会となつた。

このほか、虐待をテーマにした研修や、栄養士による職員向けの離乳食講座、看護師によるエピペン・AED講習会、嘔吐処理研修なども実施した。

なお、外部研修への参加状況は、次のとおりである。

(単位:人)

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	8月25日	中期経営計画の策定法	日本コンサルティング株式会社	1	1
2	8月27日	りんごの木夏季セミナー	ワークショップリんごの木	1	1
3	8月31日	りんごの木夏季セミナー	ワークショップリんごの木	2	2
4	9月2~3日	りんごの木夏季セミナー	ワークショップリんごの木	1	2
5	9月3日	りんごの木夏季セミナー	ワークショップリんごの木	5	5
6	9月4日	りんごの木夏季セミナー	ワークショップリんごの木	3	3
7	9月5日	りんごの木夏季セミナー	ワークショップリんごの木	1	1
8	9月7日	子どもの最善の利益とこれからの保育	調布市保育園協会	3	3
9	10月8日	現場と作る子ども主体の保育オンラインセミナー	ベネッセコーポレーション	1	1

10	10月20日	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル	東京都社会福祉協議会	2	2
11	10月21日	子どもに寄り添うためのコミュニケーションスキル	東京都社会福祉協議会	1	1
12	10月23日	キャリアアップ研修(乳児)	一般社団法人マーシフル	1	1
13	10月26日	普通救命講習会	調布市子ども生活部保育課	1	1
14	10月30日	キャリアアップ研修(乳児)	一般社団法人マーシフル	1	1
15	11月3日	キャリアアップ研修(マネジメント)	一般社団法人繭の糸	1	1
16	11月11~12日	キャリアアップ研修(マネジメント)	一般社団法人繭の糸	1	2
17	11月19日	栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
18	11月24日	栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
19	11月24日	食物アレルギーの基礎知識と保育場面での対応ポイント	東京都健康安全研究センター	1	1
20	11月26日	栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
21	11月26日	役職別オンラインセミナー(栄養士・調理師)	日本保育協会	1	1
22	11月27日	子どものことば～ことばの発達と障害～	新日本医師協会東京支部	1	1
23	12月3日	役職別オンラインセミナー(看護師・保健師)	日本保育協会	1	1
24	12月8日	保育・教育は何を期待して営まれるのか	東京都社会福祉協議会	1	1
25	12月14日	パソコン研修会	東京都民間保育園協会	1	1
26	1月12日	保育園調理室見学研修	調布なないろ保育園	1	1
27	1月17日	キャリアアップ研修(幼児教育)	日本保育協会	1	1
28	3月2日	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	日本保育協会	1	1
29	3月4日	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	日本保育協会	1	1
研修参加人数 合計 39人、延べ参加人数 41人					

## (7) 食を大切にする保育の推進

令和3年度も給食年間計画に基づき、旬の食材を使い四季の移り替わりを感じる手づくりのおいしい食事とおやつ作りに努めた。

新型コロナウイルスの流行が続く中でも、子どもたちがいきいきと楽しむ豊かな食の体験を重ねてきた。園庭の花壇やプランターで季節の野菜を育てて収穫し、子どもたちが野菜を洗って土を落として給食室に届けたものをその日の食事に調理して入れることも定着し、乳児クラスの子どもたちも栽培や収穫に関わることができた。5歳児は米作り、稲刈り、脱穀、もみすり、精米までの

工程を経験。育てたお米に白米も加え炊飯して食べることができた。豊かな食体験の様子は毎月の給食によりで知らせ、保護者と共に、子どもたちの成長を喜び合うよう心がけた。

「食育アレルギー会議」は、令和3年度もアレルギー児の情報共有、「子どもの食事で大切にしたいこと」「発達をふまえた具体的な食事のたすけかた」を学び共通の認識を持つことを目標に進めた。実際の保育中の食事介助の場面を動画におさめ、捕食、そしゃく、嚥下時の口腔機能の動きを学び、大人のあたたかい言葉がけや食事の食べさせ方を交流、共有しあう意義深い会議を重ねた。

また、調布市の食物アレルギー対応マニュアルをもとに、食事の提供についての申し合わせを職員一同で行い、アレルギーフリーの食材の使用を心がけ誤食防止に務めた。

#### ア 行事食と季節の料理

	行事食	季節の料理
4月	たけのご飯（誕生会） こいのぼりクッキー（子どもの日）	たけのこサラダ 鰯の西京焼き・いちごむしパン
5月	ピラフ・タンドリーチキン・キャロット ケーキ（誕生会）	ピースご飯・アスパラベーコンソテー 新じゃがの煮もの
6月	生姜ごはん・あじフライ・パイナップル ケーキ（誕生会）	新ごぼうのサラダ・ぎすけ煮 (歯と口の健康週間) かみなり汁・あじさいゼリー 夏越しまんじゅう
7月	七夕そうめん（七夕） 枝豆ご飯・鶏の唐揚げ（誕生会） 鰯のかば焼き丼 (土用の丑の日)	夏野菜カレー・冷やしうどん おくらのスープ たたき胡瓜のサラダ サラダずし
8月	二色ごはん (誕生会)	冷やしきつね・冷やし中華 蒸し鶏中華和え すいかのパンチ・焼きとうもろこし
9月	きのこごはん・めかじきの竜田揚げ・大納言ケーキ（誕生会） 非常用わかめごはん・けんちん汁 (引き取り訓練)	さばの塩焼き なすのミートグラタン 二色おはぎ・スイートポテト 月見うさぎのホットケーキ ぶどうゼリー
10月	さつま芋ご飯・マロンケーキ（誕生会）	けんちんうどん・きのこのカレー さんまの塩焼・さばのねぎみそ焼き りんごクッキー
11月	わかめごはん・芋の子汁 (芋煮会) 生姜ごはん・鶏の唐揚げ・りんごケーキ (誕生会)	きのこごはん・秋のシチュー 鮭のちゃんちゃん焼き プロッコリーのおひたし
12月	きなこもち（もちつき） かぼちゃのむしパン（冬至） さつま芋ごはん・鶏の照り焼き・れんこんカレー炒め・ポパイケーキ（誕生会） クリスマスピラフ・鶏のみぞ味唐揚げ・ フルーツサンド（クリスマス）	ぶり大根・鯖のみぞ煮 れんこんハンバーグ プロッコリーときさみみのサラダ 年越しうどん

1月	七草がゆ（七草） 鏡びらきのおしるこ（鏡びらき） 五目ごはん・ぶりの照り焼き・キャロットケーキ（誕生会）	鶏の松風焼き・さばのみそ煮 ぶりの照り焼き 肉まん
2月	鬼っこごはん・つみれのみそ汁・きびだんご（節分）	冬にゅうめん・根菜カレー のっつい汁・れんこんハンバーグ 白和え
3月	鮭ずし・菜の花サラダ 鮭の西京焼き（ひなまつり） 赤米ごはん・鶏のみそ味唐揚げ・大納言ケーキ（誕生会）	鮭の西京焼き・豚肉とふきの煮もの たけのこサラダ 二色おはぎ・桜まんじゅう 年長児のリクエスト献立

#### イ 食育

4月	たけのこ皮むき	10月	さんまの姿を見よう
5月	グリンピースむき	11月	芋煮会 2歳～5歳：野菜ちぎり、包丁
6月	そら豆のさやむき 赤じそジュースづくり	12月	もちつき 2～5歳
7月	枝豆とり とうもろこしの皮むき	1月	お箸のおはなしと練習 食事の姿勢、マナーのおはなし
8月	夏野菜の収穫	2月	三色栄養のおはなし (ペーパーサート)
9月	非常食を食べよう	3月	

#### ウ 給食での給与栄養目標量

保育園での給与栄養目標量については、本年度も年間通しての設定とした。

	エネルギー	蛋白質	脂質
乳児	490kcal	18.4g	14.7g
幼児	605kcal	22.6g	18.2g

#### エ 食物アレルギー児の状況

卵のみ3人、卵・ゴマ1人、計4人のアレルギー児に対しての食事の除去、代替食を実施した。

#### (8) 防犯・防災対策

##### ア 避難訓練

訓練は4月から始め、月を増す毎に設定を細かくし、これまで以上に職員が緊張感を持って臨めるよう日程を定めずに実施する月を設定するなど、様々な状況に対応できるようにした。また、令和3年度は様々な時間に発生した災害想定での訓練も設定し、少ない職員数の中での訓練を実施した。

また、防災計画及び自衛消防組織編成を見直し、地震・火災対策に応じた役割分担をより明確化するとともに、職員同士の伝達、協力体制を強化した。

尚、3月の訓練は職員間での連絡にミスがあり、実施できなかった。

(単位：人)

月 日	内 容	園 児	職 員
4月 20日	火災訓練、消火訓練	96	25
5月 18日	火災訓練、消火訓練	97	10
6月 15日	火災訓練、消火訓練	95	27
6月 19日	地震訓練、消火訓練	8	5
7月 8日	地震訓練、消火訓練	14	8
7月 28日	地震訓練、消火訓練	98	33
8月 24日	火災訓練、消火訓練	85	18
9月 1日	地震訓練、引取訓練	74	31
9月 28日	火災訓練、消火訓練	90	27
10月 6日	火災訓練、消火訓練	90	20
11月 4日	地震訓練、消火訓練	87	21
11月 16日	防犯訓練、通報訓練	89	20
12月 15日	火災訓練、消火訓練	63	25
12月 18日	地震訓練、消火訓練	10	5
1月 17日	火災訓練、消火訓練	80	27
2月 18日	地震訓練、消火訓練	10	7
2月 22日	火災訓練、地震訓練、消火訓練	75	27
3月	(未実施)		

## イ 救命訓練（A E D・エピペン）

傷病者を発見してから救急隊に引き渡すまでの訓練を行った。

意識確認→呼吸確認→心肺蘇生→A E D、また、119番通報、園児への対応など一つの流れを作り、誰もが処置できる訓練をした。エピペンの対象児が1人いるため、急遽投与が必要になった際に誰もが適切に対応できるように、エピペン練習用トレーナーを使用してのトレーニングを全職員に行った。

(単位：人)

月 日	参加職員数	月 日	参加職員数
7月 15日	5	12月 22日	5
9月 16日	6	2月 25日	7
10月 21日	4		

## ウ 侵入者対策、防犯訓練

マニュアルをもとに、職員間で内容を確認したうえで、事前に具体的な訓練内容は職員には伝えず、実際に職員がどの様に動くことができるのかを検証した。子どもたちの避難誘導、不審者への対応など、この訓練によりマニュアルにある役割に沿った動きの難しさや課題点が分かり、防犯に関する職員の意識がより高まった。

## VI 調布なないろ保育園

### 第1 総 括

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化し、流行状況の起伏に合わせて、保育内容の工夫や行事の内容精査を検討しながら、子ども達の経験が不足しないよう運営した。

子どもの豊かな成長を促すための保育の営みは、新型コロナウイルスの感染を防ぐために必要な「ソーシャルディスタンス」を一定間隔常にとることの意味とは相反し、友達や保育者との肌のぬくもりや対話、歌をうたうことの楽しさ、食事時の会話、さらに友達と濃く関わり協力して何かを成し遂げることの大切さにある。子ども達が「人」として育つ大切な乳幼児期に、新型コロナウイルスと共生しながらあたたかな保育を継続できたことは、運営に対する保護者の多大な理解と、状況を客観視し、子ども達の利益を念頭におきながら、その時々の最善を追及してきた職員の努力に他ならない。

計画していた園庭改築後の遊びの発展の確認やSDGsへの取り組みは、園内研修で計画的に取り上げ、課題を明らかにし、実践へと繋げたことで前進している。次世代を担う子ども達の成長に、時代の求める姿を咀嚼しながら、この時代だからこそ、変わらずに育むこと、新たに取り入れていくことを整理し今後も誠実に取り組んでいく。

また、保育システムを段階的に移行することで、職員の事務的なストレスが一時的に増加したこともあったが、おおよそ軌道に乗り、保護者との連携を強めながら円滑な活用に繋がっている。今後も臨機応変な対応が可能になるよう、新たな整備をしつつ、家庭と密に関わり合いながら、子ども達の育ちを保護者と共に愛情深く見守り、一日いちにちを大切に運営していく。

### 第2 経営実績

#### 1 定員

(単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	14	20	20	20	20	100
実数	9	14	20	21(1)	21	21(1)	106

※ 括弧内は、障がい児の受け入れ数

#### 2 利用率

(単位: %)

事業名	令和3年度実績	令和2年度実績
調布なないろ保育園	105.8	106.0

### 第3 事業報告

#### 1 重点事項への取組

##### (1) 豊かな保育運営

令和3年2月に改築した園庭での遊びがどのように発展しているのかを、定期的な園内研修で事例をあげて共有した。遊びが分散することで、子どもが自分の好きな遊びを没頭して遊び込み、一つの遊びを友達と創意工夫しながら発展していく様子が年間を通して生まれた。研修内では、その遊びをさらに発展させるための道具の在り方や提供方法、保育士の見守り方など、積極的な意見交換ができ、子ども達の経験の保障に繋がった。一方室内の環境設定は幼児クラスの異年齢交流が定着したこともあり、幼児クラスでは比較的自由な選択が子ども達の中で浸透してきたものの、乳児クラスでは新型コロナウイルスの感染拡大予防の観点から、積極的な見直しには至れず、今後の課題として残しているので、継続しながら取り組んでいく。

保護者との関わりにおいては、例年に増して「繋がり」を意識して取り組んだ。保育システムの移行を段階的に進めたり、クラス懇談会をオンラインで開催したりし、対面の機会が減少しても、保育と家庭との様子が連動するよう努めた。また、リーダー層や各クラスが発信する「おたより」を頻繁に発行し、園での様子が保護者に伝わるよう配慮した。保護者からも、園の取り組みに対する感想や、感謝をいただくことが多く、園と保護者とが情報共有しながら協力して子育てを行うことができた。

##### (2) 職員の資質向上

年間を通して計画的に実施した園内研修では、小人数のグループディスカッションを中心に意見交換を実施し、会の後半で発表することで職員一人ひとりが主体的に研修に参加でき、実践へと生かすことができた。

また、外部研修のほとんどがオンラインでの開催だったので、研修参加が増加し、個々の学びたい内容を時を逃さず受講できそれぞれの学びに繋がった。

##### (3) SDGsの取組

令和3年度は「SDGsの内容を理解する」ことを目標におき、国の達成状況や取り組み事例を照らし合わせ、園内の課題抽出を行った。特に「ジェンダー平等」「海、陸の豊かさを守ろう」「質の高い教育をみんなに」という項目は関心が高く、自分達の問題として解決案を提示し、早速保育に取り入れることを始めている。また、今後、より意識的に取り組みを進めるために「SDGsのマーク」を作成したので有効的に活用していきたい。

## 2 実績報告

### (1) 園児の受け入れ状況

月別の園児受け入れ状況は、次のとおりである。

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	237
	1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	計	106	106	106	106	106	106	106	106	105	105	105	1,269

### (2) 地域の子育て支援

#### ア 一時保育事業

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間は、就労家庭と緊急枠利用家庭のみを利用対象として支援を行った。

令和3年度は、定員5人枠に加え、緊急措置の必要な家庭が重なり1日7人の受け入れを行った。しかし、地域には子育てに悩みを抱えている家庭や、コロナ禍により孤立している家庭もあり、問い合わせに応じて丁寧に面談や電話連絡を行い、相談を受けるなどして就労等の条件に欠けても必要があれば保育の受け入れに柔軟に対応した。

(単位：人)

月	一時保育延べ利用児童数												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	84	62	86	90	91	62	94	101	118	75	48	103	1,014

#### イ 地域交流事業

令和3年度もコロナ禍により実施回数は限られてしまったが、就学前の地域家庭を対象に園児との交流を図りながら保育体験を行った。地域では、家庭同士で交流する機会が減り、繋がりがもちにくい現状がある。保育園に来園することで子ども同士の交流が生まれたり、保護者の子育ての悩みなどにアドバイスができたりし、少ない回数の中でも有意義なものとなった。

(単位：組)

保育園体験	参加者
6月25日	3
11月9日	1
12月8日	2

#### ウ マタニティーサポート

出産を控えた妊産婦や1歳未満の子を持つ保護者を対象に、0歳児クラスにて体験をしながら子育て相談を行った。近隣の公園にも行けない現状の中、園庭遊びなど貴重な経験を提供することにより、我が子の成長に気付き喜びを共感できた。また、園児が離乳食を食べる姿を実際に見ながら、離乳食の与え方や作り方等具体的なアドバイスを行うことができた。

(単位：組)

実施日	参加者
6月30日	3

#### エ 保育講座

保育園に在園している家庭を対象に園での特色を生かした内容で保育講座を行った。

令和3年度もコロナ禍ではあったが、参加希望者が多く、抽選で5人に限定し実施した。感染防止に配慮しながらの講座ではあったが、親子で制作ができ好評だった。

(単位：組)

実施日	内容	参加者
1月15日	万年カレンダースタンプ作り	5

#### (3) 食育活動

「食べることを大切にし、感謝の気持ちが持てる子ども」「正しい食習慣が身につく子ども」「食材に興味・関心を持ち楽しく食べる子ども」の三点をテーマに、栄養士や調理員が中心となって、食育の月目標を立て実践した。令和3年度から食育実践計画表を作成し、保育士と事前に内容について話し合い評価・反省を行った。目標の達成に当たっては、子ども達に分かりやすいようエプロンシアターや手作りのパネルを用いて伝え、給食時には喫食の様子を見に行くなどして状況把握に努め、月1回のカリキュラム会議で報告した。食育実践計画表を用いることでより充実した食育活動に繋がった。

調理活動については、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により制限があったため、子ども達が食材を見たり触れたりする機会を増やす取り組みを行った。幼児クラスではきのこの栽培を初めて実施するなど、年間を通して旬の食材に触れる機会を提供することができた。

また、令和3年度は情報発信に力を入れ、「給食だより」の他に、玄関横に食育活動や食事の様子を定期的に掲示した。降園時に保護者が迎えに来た際、掲

示内容に目を通す姿や、レシピを手にとったりする姿が昨年度より多く見られた。今後は、保護者のニーズに合わせ、簡単に早く作れる時短レシピを検討し、作成していきたい。

#### ア 行事食と郷土料理、世界の料理献立

月	行事食	郷土料理・世界の料理
4月		郷土料理（北海道） ・豚丼 ・ラーメンサラダ
5月	子どもの日 ・こいのぼりカレーライス	
6月		世界の料理（韓国） ・ヤンニョムチキン ・チョレギ風 TT サラダ
7月	七夕 ・星のハンバーグ ・星の麩のせポテトサラダ	
8月		郷土料理（沖縄県） ・タコライス ・ソーメンチャンプルー ・アーサ汁 ・紫芋ドーナツ
9月	防災の日（非常食） ・やきとり丼 ・ライスクッキー ・えいようかん	世界の料理（ヨーロッパ） ・サバサンド ・キャベツの粒マスタードマリネ （トルコ） ・夏野菜ボトフ（フランス）
10月	開園記念日 ・栗入りお赤飯 ・チキン南蛮等 運動会応援献立 ・ぶひぶひソースかつ丼	
11月	和食の日献立 ・秋の香りご飯 ・サバの甘辛竜田揚げ	世界の料理（アメリカ） ・チキンのジャンバラヤ
12月 アレルギー除去強化月	なかよし献立 ・クロワッサン（乳・卵不使用） ・ポテトサラダ等 もちつき ・だまこ汁 冬至 ・大学かぼちゃ クリスマス ・星のピザ ・フライドチキン等	
1月	七草 ・七草粥 鏡開き ・おしるこ	郷土料理（九州地方） ・かしわうどん（北九州）
2月	節分 ・いわしのかば焼き丼 ・大豆ときゅうりの 粒マスタードサラダ	

	バレンタイン ・バレンタインクッキー	
3月	5歳児リクエスト献立 ・カレーラーうどん ・味噌ラーメン ・ポップコーン等 ひな祭り ・ひな祭りごはん ・鶏のからあげ ・若竹汁 ・桜のプリン	

#### イ 食育活動

4月	よもぎホットケーキ（5歳児）	9月	お月見団子（5歳児）
5月	いちごミルク（3歳児）	9月	りんごシャーベット（1歳児）
6月	ジューンベリージャム（5歳児）	11月	やきいも（全体）
6月	梅シロップ作り（4, 5歳児）	11月	きのこ栽培～調理（幼児）
7月	ゆでじゃがバター（幼児）	12月	大根パーティ（全体）
7月	ボテトピザ（5歳児）	12月	大根の葉ふりかけ（5歳児）
7月	無限ピーマン（5歳児）	1月	鏡開き～おしるこ～（幼児）
8月	かき氷（全体）	2月	豆炒り、焼い喰がし作り（5歳児）
8月	梅シロップジュース（全体）	3月	だしの飲み比べ（5歳児）

※ 日々の保育の中で野菜の皮むき・おにぎり作りを実施（5月～3月）

※ 当日献立食材を、見て、触って、感じる（0～1歳児）

※ 旬の食材の種類を感じ、触感、香り、味覚の違いを感じる（1～2歳児）

#### (4) 保健報告

##### ア 健康管理

春には感染性胃腸炎が流行し、保健所の積極的疫学調査を実施した。夏にはRSウイルス感染症が流行し、収束までに2週間程度を要した。年度末には園児の新型コロナウイルスの感染報告が続き、2回臨時休園となった。いずれの感染症においても同時期に職員の感染報告が続き、園内の消毒作業の指示・確認や園児及び職員の健康管理と感染予防のための働きかけを行った。

新型コロナウイルスの流行が始まってから、乳児の身体・精神発達が例年に比べて遅れている様子がみられたため、主に0歳児クラスで、担任や家庭と情報共有し発達を促す関わりを実施した。

新型コロナウイルスの影響で外部との関わりが少なく、他児との比較ができなくなった影響か、園児の便秘等の健康問題がそのままになっている様子もあり、今後は家庭との連絡を今まで以上に密にし、育児に対する不安等に丁寧に向き合っていきたい。

## 【感染症罹患状況】

(単位：人)

新型コロナウイルス	6	ヘルパンギーナ	2
突発性発疹	3	R Sウイルス	1 2
溶連菌感染症	1	感染性胃腸炎	3 7

## イ 受診ケース

令和3年度は昨年に比べ受診件数は微増した。ケガの内容は、昨年度に引き続き転倒による口腔内のケガが多かった。また、過去の肘内障の反復や、職員の声掛け、見守りに起因するケガがあり、園児への対応について職員に対する注意喚起を行った。

月 日	性別・年齢	項 目	受診先
4月1日	男児・2歳児	巧技台 60cm高さから頭から転落	脳神経外科受診
4月8日	女児・3歳児	園庭遊びで顎を打撲し口腔内出血	歯科受診
4月17日	女児・1歳児	クリアファイルが目に当たり出血	眼科受診
5月17日	男児・3歳児	左腕肘内障	整形外科受診
7月27日	男児・4歳児	園庭の丸太が額にぶつかり皮下出血	脳神経外科受診
8月18日	女児・1歳児	玩具をくわえたままぶつかり、口腔内出血	歯科受診
9月6日	女児・3歳児	左腕肘内障	整形外科受診
9月7日	女児・5歳児	木製椅子を足に落とし足指から出血	外科受診
9月15日	男児・1歳児	園庭で転倒、歯牙動搖、歯肉出血	歯科受診
12月10日	男児・2歳児	玩具に口をぶつけ歯牙動搖	歯科受診
2月9日	女児・5歳児	園庭遊具に口をぶつけて歯肉出血	歯科受診
3月5日	男児・2歳児	園庭扉に指が巻き込まれ皮膚・爪剥離	形成外科受診

## (5) 避難訓練及び防災対策

避難訓練は日中の時間帯や土曜日・遅番時など様々な状況における災害を想定し、月1回以上実施した。6月から12月までは告知訓練とし、1月からの訓練は抜き打ちで行った。

子ども達には分かりやすいようパネルを使用し、災害時の約束事の理解を深めた。

また、水害訓練は、昨年度までの職員の垂直訓練と水平訓練に加え、4・5歳児も実際に避難先の調布市立第三小学校までの避難経路確認を行い、意識を

高め、問題点の確認を行った。

また、防災・防犯マニュアルを策定し、様々な災害に対する心構えや、有事の際に迅速な対応ができるよう施設全体で確認を行った。

#### (6) 年間行事報告

一年間に実施した行事は、以下のとおりである。

月 日	項 目	内 容
4月 1日	入園式	本年度の入園式は在園児代表として5歳児のみ参加して入園式を実施した。5歳児のよさこい披露、メダルのプレゼントをして新入園児の入園を祝った。
4月 28日	4・5歳児春の遠足	多摩川親水公園を予定していたが、緊急事態宣言発令のため、多摩川河川敷上流広場で遊び、帰園後、園内にて弁当を食べた。急な変更となったが、十分に楽しむことができ、よい思い出となった。
5月 21日	3歳児春の遠足	多摩川下流広場を予定していたが、雨天のため4Fプレイルームにてゲーム遊びをして楽しんだ。持参の弁当は保育室で食べることになったが、遠足気分を味うことができ、子ども達はとても喜んでいた。
7月 10日	夏祭りの会（内容変更）	新型コロナウイルス感染拡大のため、保護者を招いての開催は中止となり、幼児異年齢交流の「わくわく♪」の中で園児のみで実施。ゲームコーナーやかき氷などを食べ、夏祭りの雰囲気を楽しみ、満喫した。
9月 10日	おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会（内容変更）	新型コロナウイルスの影響で開催はできなかったが、希望者を募り、写真を園内に掲示したり、祖父母にカードを作つて渡せるようにキットを用意してプレゼントしたりした。直接会えなくても絆を深める働きかけをすることができた。
10月 23日	運動会	園庭改築後、初めての運動会であったが、感染予防も含めて開催方法を検討し、クラスごとの入れ替え制とした。主に保護者参加型の内容としたことで、親子で触れ合い、楽しむことができた。雰囲気もアットホームな運動会となり、保護者にも子ども達の様子がよく伝わり、子ども達自身も必要以上の緊張感をもたずにいつもの力を発揮することができた。
10月 29日～ 10月 30日	お泊り保育（5歳児）	8月6、7日で実施予定であったが、緊急事態宣言下となり延期した。初めて秋の開催となったが、暗くなることが早いことで、園庭での夕食が特別感が増し、星を観察できたり、夜は涼しくぐっすり眠ることができたり、良い点もあった。イベントとして夜の映画鑑賞、散歩をグループに分かれて行ったが、とても好評だった。
11月 12日	秋の遠足（3歳児）	春の遠足を経験していないため、行先は春と同じ多摩川河川敷きに出かけ、お弁当は帰園した後、園庭で食べた。長距離の散歩先で遊んだあとのお弁当は、特別感があり、子ども達は笑顔がいっぱいだった。
11月 18日	秋の遠足（4歳児）	公共の公園では飲食ができないため、行先を多摩川下流とした。水場ではエビや小魚を捕まえる姿もあり、また、自由に散策することも楽しんでいた。帰園後、園庭でお弁当を食べ、遠足先ではおやつを用意するなど楽しみが盛りだくさんの遠足となった。
11月 19日	秋の遠足（5歳児）	2年ぶりに観光バスを利用して高尾山登山遠足を実施。バスの中では高尾山に関するクイズなどで気分も上がった。登りは体力差もあり、予定より時間がかかったが全員で登頂することができ、クラスの仲間意識が強くなった。また自然も楽しむことができ、遠足後、図鑑を広げる姿が多くなった。
12月 14日	餅つき会	4Fプレイルームにて実施。本年度も保護者の手伝いは募集せず、職員、園児のみで行った。例年、近隣家庭に年末の挨拶として鏡餅を配付してきたが、本年度も中止した。その代わり、年長児一人ひとりが飾りたい場所に自作の鏡餅を供

		え、新年に向けての準備を行った。
1月 6日	新年を祝う会	お正月遊びの開会は放送で行い、幼児クラスはこま、福笑い、すごろく等の正月遊びコーナーに分かれて楽しんだ。獅子舞が乳児クラスから順番に周り、幼児は自ら頭を噛んでもらって厄除けをし、伝統的な遊びを楽しむことができた。
2月 3日	節分の会（内容変更）	コロナ対策のため、全員が一堂に集まることはせず、乳児クラスは担当が各保育室を回り、幼児クラスは園庭で年齢ごとに入れ替えて、クラスごとに実施した。各クラスで実施したことにより、子ども達は充分鬼退治ができ、節分の意味も理解して楽しんだ。
3月 16日	卒園式	昨年度同様に感染予防のため、4・5歳児のみの参加とした。年長児は歌や言葉など堂々とした姿で参加し、4歳児、保護者、職員は盛大に祝うことができた。卒園式終了後に保護者がささやかな「謝恩会」を開催してくれ、子ども達の小さい頃からのDVDを見て成長を喜ぶことができ、晴れやかな会となった。
3月 17日	音楽鑑賞会	当初、全園児対象としていたが、まん延防止等重点措置期間中のため、4・5歳児のみ対象とした。歌を中心とした参加型の鑑賞会であり、子ども達に馴染みのある曲も多く、楽しんでいた。
3月 24日	お別れ散歩	幼児クラスは日頃から異年齢で交流していることもあり、本年度は年長児のみが乳児クラスと散歩に出かけた。年長児と年下の子たちが手を繋いだり、散歩先で遊んだりして、楽しいひとときを過ごすことができた。
3月 28日	1年生を招く会	小学校1年生の卒園児を19名招いて実施した。小学校生活の話を聞いたり、1年ぶりに一緒に遊んだりすることで5歳児クラスの子ども達にとってよい思い出となり、就学に向けての期待を持つことができた。
3月 29日	さくら組を送る会	本年度の異年齢児交流「わくわく♪」として桜が咲き誇る都立武蔵野の森公園へ散歩に行き、さくら組との最後の交流を楽しんだ。普段の散歩より距離はあったが5歳児が手をつないで歩き励まし、3歳児も頑張って歩く姿が見られた。同日午後にはさくら組への今までの感謝の気持ちを込めた会として、4歳児からメダルのプレゼント、全員では「また会える日まで」を歌い、さくら組をみんなで送り出す温かい会となった。
定 例	誕生会と伝統行事	七夕、十五夜、ひな祭りなど、季節ならではの行事を年齢に合わせて意味等を伝えながら行った。誕生会は感染症の状況に応じて集合したり、放送でクイズや簡単なゲームなどを取り入れて楽しんだり、誕生児を写真にて紹介したりして祝った。

## (7) 職員研修の状況

研修への参加状況は次のとおりである。

No.	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	6月 21日	給食担当者講習会	東京都社会福祉協議会	1	1
2	7月 7日	ちよこっとわらべうた研修	山の音楽舎	3	3
3	7月 30日	日本の食文化・郷土の食	調布市福祉健康部	1	1
4	8月 27日	「困った子」は「困っている子」	一般社団法人チャイルドラボ	1	1
5	9月 2日	創造性を育む素材や保育環境とは？	一般社団法人チャイルドラボ	1	1
6	9月 6日	ダウン症の理解	株日本教育クリエイト福祉事業部三幸カレッジ	2	2

7	9月7日	子どもの最善の利益とこれからの保育	調布市保育園協会	1	1
8	9月29日 10月9日	保育士等キャリアアップ研修(乳児保育)	一般社団法人家庭まち創り産学官協創ラボ	1	2
9	10月7日~21日	子どもに寄り添うためのコミュニケーション	東京都社会福祉協議会	11	11
10	10月15日	運動発達と口の機能発達から	新日本医師協会東京支部	1	1
11	10月18日 11月15日 12月16日	東京都保育士等キャリアアップ研修(幼児教育)	東京都民間保育園協会	1	3
12	11月2日	高知県野菜の魅力を引き出そう	和食給食応援団	1	1
13	11月18日・19日 1月7日・8日	保育士等キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	日本ウェルフェアサービス協会	1	4
14	11月24日・25日・26日	「保育」と「発達」についてもう一度考える	全国私立保育連盟	1	3
15	11月27日	ことばの発達と障害	新日本医師協会東京支部	1	1
16	11月28日	リーダーシップ研修	保育コミュニケーション協会	7	7
17	11月28日	尊い命を犠牲にしないために私たち一人ひとりにできること	児童虐待防止全国ネットワーク	1	1
18	12月20日	食に関する環境とらえ方と環境づくり	社会福祉法人日本保育協会	1	1
19	1月13日	L G B Tへの理解とこれからの共生社会に向けて	東京都社会福祉協議会	1	1
20	2月4日・8日・14日	東京都保育士等キャリアアップ研修(乳児保育)	東京都民間保育園協会	1	3
21	2月18日	自然との共主体を考える	(株)スマートエデュケーション	3	3
研修参加人数合計 42人				延べ参加人数合計 52人	

## VII 調布市立学童クラブ・ユーフォー事業部門

### 第1 総 括

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間が4月から9月まで続いた。この間の各種行事等は中止や延期となつたが、学童クラブとユーフォーの各施設では、基本的な感染対策を徹底し通常の運営に努め、臨時休業することなく児童の育成を行つた。また、夏休み後半には、児童や教職員の感染が相次いでいたことから、急遽、小学校の夏休み期間が10日間延長となり、夏休み期間の延長と併せて、各施設における児童の1日育成期間を延長する必要があつたため、当初予定した9月の職員シフト体制を組み直して対応を行つた。

10月に入りようやく緊急事態宣言等が解除されたものの、各施設では、感染リスクを避けるなどの理由から利用を自粛する児童も多く、一時的に児童の利用者数が減ってしまったが、感染者数の減少とともに、登室する児童も徐々に増えはじめ、これまで中止や延期となっていた行事も、基本的な感染対策を徹底したうえで一部再開することになった。

その中で、市主催のドッヂビー大会は、会場が屋内のため、感染拡大防止の観点から中止となつたが、屋外の施設で行われたサッカー大会は、児童館や学童クラブの各チームが優勝を目指し白熱した試合が行われ、久しぶりに児童や保護者との交流を図ることができた。また、ユーフォーの各施設についても、児童館との交流会の実施や様々な工作イベントを再開することができた。

しかしながら、年末から再び新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株の市中感染が広まりはじめ、市内の小学校でも、学年閉鎖や学級閉鎖が相次ぐようになつた。その中で、多摩川小学校の児童や教職員の陽性者が増えていたことから学校閉鎖となり、小学校内に設置している多摩川小学校学童クラブやユーフォーについても、法人として初めて14日間の臨時休業になつた。

その後は、他の施設から児童や職員の感染等報告もあつたが、全施設の抗菌処理による感染予防対策や、感染者を早期に発見するために全職員が週1回の抗原検査を行うなど、集団感染や感染拡大の防止に努めた。また、感染拡大の影響により、職員の欠員が生じた施設については、施設間の応援・協力体制を組み対応し、臨時休業することなく運営を継続することができた。

1年を通してコロナ禍ではあったが、児童の安全・安心な居場所として、基本的な感染対策を徹底しながら、室内遊び、外遊びなど工夫を凝らした活動の場を提供する中で、児童が少しづつ生活習慣を身につけ、成長していく姿を見ることができた。

## 第2 経営実績

### 1 定員

#### (1) 調布市立学童クラブ

施設名	定 員 (人)
なないろ第1学童クラブ	40
なないろ第2学童クラブ	50
わかば学童クラブ	70
かみいしわら第1学童クラブ	50
かみいしわら第2学童クラブ	50
多摩川小学校学童クラブ	60
あおば学童クラブ	55

※ 第3 1(2)「ア 児童の受入状況」参照。

#### (2) 放課後子供教室事業「ユーフォー」

全在籍児童対象の事業で、登録制のため定員は定めていない。

### 2 目標値に対する実績

学童クラブ及びユーフォーの安全で安心できる運営を目指して、各施設の医療機関への受診件数を目標値として定め、ケガの防止を重点目標として取り組んだ。

その結果、学童クラブでは、昨年度と同件数の8件、ユーフォーでは昨年度比1件増の3件となったが、全施設で目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名及び受診件数
5,000人未満の施設	2件以下	緑ヶ丘小学校ユーフォー 1件 石原小学校ユーフォー 0件
10,000人未満の施設	3件以下	あおば学童クラブ 2件 若葉小学校ユーフォー 0件 多摩川小学校ユーフォー 0件 第三小学校ユーフォー 0件 飛田給小ユーフォー 0件 富士見台小学校ユーフォー 2件
15,000人未満の施設	4件以下	なないろ学童クラブ 1件 わかば学童クラブ 2件 多摩川小学校学童クラブ 3件 かみいしわら学童クラブ 0件

## 第3 事業所別事業報告

### 1 調布市立学童クラブ

#### (1) 重点事項への取組

##### ア 安全・安心な学童クラブ運営

ケガによる児童の受診ケースに関しては、令和3年度は8件であった。受診を伴わない事例に関しては、事故の詳細をまとめた報告書を作成し、各施設内で共有するとともに再発防止に努めた。

新型コロナウイルス感染症に罹患する児童が多かったため、児童が登室する際には、基本的な感染防止対策（手洗いの徹底、マスクの着用、検温、こまめな換気、3密の回避）を前年度から引き続き実施するとともに、令和3年度は喫食時のパーテーションを増やし、児童在籍数が多い施設では、お弁当やおやつの時間を2部制に分け、黙食を徹底するなどの対策を講じた。

また、保護者のお迎えは玄関口での対応とし、併せて職員の定期的な抗原検査の実施や感染予防に関する意識の向上を図り、施設内感染の防止に努めた。

#### イ 施設間の連携

5施設7学童クラブの施設長が集まる会議を毎月実施し、必要な情報を共有するとともに、西部地区と東部地区の連携を深めた。

また、全職員による合同会議を令和3年度は2回実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により1回の実施となった。各施設の情報共有を行うとともに職員同士の交流を図り、支援員としての質の向上に努めた。

#### ウ 職員の資質向上等

東京都や調布市が行う様々な研修へ職員が参加し、知識の向上を図っているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受講予定であった研修が中止となり、受講の機会が減ってしまった。

また、人材確保を行うために、民間求人サイトやハローワーク等を活用したが、人材不足の解消には至らなかった。

#### エ 中期経営計画の取組推進

業務の標準化・効率化に向け、プロジェクトチームを立ち上げ、毎月定期的に会議を開催する中で、各施設の状況を把握するための現状確認を行い、課題解決に向けた検討を行った。

また、人材の育成や定着を図るため、保育園と合同で求職者向けパンフレットを作成するとともに、研修担当者会議を立ち上げ、次年度に向けた研修計画を作成した。

サービスの質の向上については、施設間連携に向けた体制づくりの検討を重ねるとともに、他の運営事業者との情報交換を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期になったイベントも多くあったが、児童館等でのイベントへの参加など一部で交流を図ることができた。また、小学校で開催された学校評価委員会や運営会議に出席し、児童や地域の様子を情報共有するとともに、防犯・防災関係の連携情報も確認することができた。

### (2) 実績報告

#### ア 児童の受入状況

月別の児童受け入れ状況は次のとおりである。

### なないろ第1学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	12	12	15	12	12	11	11	11	11	11	11	140
	小学2年生	15	15	12	15	15	14	16	16	17	17	17	185
	小学3年生	10	9	11	6	6	5	5	5	5	5	5	77
	小学4年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10
	小学5年生	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	小学6年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	計	40	39	41	36	36	32	34	34	35	35	34	429

※障がい児：2年生に2人、6年生に1人

### なないろ第2学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	15	15	12	15	15	15	14	14	14	14	14	171
	小学2年生	11	11	15	13	14	14	13	13	12	11	11	149
	小学3年生	11	11	8	11	11	11	8	7	7	7	7	106
	小学4年生	11	11	11	10	10	9	9	9	9	9	8	114
	小学5年生	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	7
	小学6年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	計	50	50	48	51	52	51	46	44	43	42	41	559

※障がい児：6年生に1人

### わかば学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	18	18	18	19	19	19	19	21	21	21	20	234
	小学2年生	24	23	23	23	23	23	22	22	22	22	20	268
	小学3年生	28	28	28	28	28	28	27	27	27	27	28	332
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	70	69	69	70	70	70	68	70	70	70	69	834

※要配慮児：2年生に1人、3年生に1人

※障がい児：1年生に1人

### かみいしわら第1学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	23	23	23	23	23	23	22	22	21	21	21	268
	小学2年生	19	19	19	19	19	19	18	17	17	16	16	214
	小学3年生	9	9	9	8	8	8	8	11	11	11	11	114
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	51	51	51	50	50	50	49	50	50	48	48	596

※要配慮児：1年生に1人

かみいしわら第2学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	163
	小学2年生	21	21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	242
	小学3年生	14	14	14	14	16	16	16	16	16	16	16	184
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		49	49	48	48	50	50	50	49	49	49	49	589

※要配慮児：1年生に1人、3年生に1人

多摩川小学校学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324
	小学2年生	32	33	33	31	31	31	30	30	31	31	30	373
	小学3年生	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		59	60	60	60	60	58	57	57	58	58	57	701

※要配慮児：2年生に2人（1人は9月末退会）

あおば学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	小学1年生	28	27	28	28	28	27	28	28	28	27	27	332
	小学2年生	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
	小学3年生	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	22
	小学4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		55	54	55	55	55	54	55	55	55	55	53	654

※要配慮児：1年生に2人、2年生に1人

イ 児童の健康報告

(7) 感染症

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、基本的な感染予防対策（手洗い、マスク着用、換気、手指や玩具等の消毒など）を徹底したが、全施設では、罹患する児童が38人発生した。

また、インフルエンザの罹患者はいなかった。

(単位:人)

	インフルエンザ	新型コロナウイルス	その他の感染症
なないろ第1学童クラブ	0	2	0
なないろ第2学童クラブ	0	9	0
わかば学童クラブ	0	8	2

かみいしわら第1学童クラブ	0	1	0
かみいしわら第2学童クラブ	0	5	0
多摩川小学校学童クラブ	0	5	1
あおば学童クラブ	0	8	0

※その他の感染症は、マイコプラズマ肺炎・水痘・おたふくかぜ・溶連菌感染症・アデノウィルス・ロタウィルス・ブル熱・流行性結膜炎・頭ジラミ・はやり目

#### (1) 受診ケース

##### なないろ第1学童クラブ

医療機関に受診するケースはなかった。

##### なないろ第2学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
7月16日	2年生男児	ドッヂビーで遊んでいる際に、背後の児童と衝突し、反動で左手を床につきひねるよう転倒し、靭帯損傷	整形外科

##### わかば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
8月25日	3年生男児	下駄箱にぶつかり右上半身(顔・肩・腕)を打撲、擦傷を負った。	整形外科
11月1日	2年生男児	目を瞑ったまま階段を登り転倒。左こめかみ付近に切り傷を負い縫合。	形成外科

##### かみいしわら第1学童クラブ

医療機関に受診するケースは、なかった。

##### かみいしわら第2学童クラブ

医療機関に受診するケースは、なかった。

##### 多摩川小学校学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
6月3日	1年生女児	廊下を走り、転倒し頭部を打った。	脳神経外科
9月3日	2年生女児	本児が職員を通せんぼしていた際、職員がかがむ態勢になり、頭を上げたところ、見下ろしていた本児の前歯と職員の頭がぶつかった。	歯科医院
1月11日	1年生女児	おじぎをしていた他児の頭が、本児の額にぶつかり舌が切れた。	歯科医院

## あおば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
4月 16日	1年生男児	友達と口論から叩き合いのケンカに発展した。相手の児童が鉛筆を持ち出し、本児の太ももに先を当てて引いたため、5cm程度の浅い切り傷が残った。	皮膚科
6月 30日	2年生女児	鬼ごっこで逃げている時に、前方不注意だったため他児と衝突して転倒し、膝を擦りむいた。	整形外科

### ウ 年間行事報告

(7) 1年間に実施した共通の行事は、次のとおりである。

行事名	学童別開催月	内 容
親子交流会	全学童クラブ	例年、各施設にて様々な親子交流会を開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度に続き本年度も開催なし。
保護者会	全学童クラブ	新型コロナウイルス感染防止対策として、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置期間外の時期に「夏休みに向けて」の保護者会を開催した。3密を避け、感染防止対策を徹底したうえで、保護者にも協力いただいた。
個人面談	わかば学童クラブ あおば学童クラブ 多摩川小学校学童クラブ (10月)	上半期を終え、新型コロナウイルスの影響により保護者との交流が減少し、希望者のみ学童クラブでの様子やご家庭での様子の情報交換をした。
クリスマス会	全学童クラブ	3密を避ける工夫をし、クリスマスならではの雰囲気を味わいながら、クリスマスマニューオのやつやbingoゲーム、玩具のプレゼント提供を行った。
学童クラブ交流事業	ドッヂビー大会(12月)	新型コロナウイルス感染拡大防止により中止
児童館交流事業	サッカー大会(1月)	本年度は、新型コロナウイルス対策として3部制に分けての交流事業となった。短い時間ではあったが、児童たちが楽しんで参加している姿が多くみられた。また、児童や保護者との交流を図れた。
誕生会	全施設毎月実施	個々の児童の誕生日に、例年ではゲームや工作を企画し祝うが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おやつのみで誕生会を毎月実施した。
防犯・防火訓練	全施設年6回実施	年間の計画を基に、各施設において防災訓練を実施した。なお、ユーフォーと併設している多摩川小学校学童クラブとあおば学童クラブは、ユーフォーと合同で実施し、緊急時の協力や安全に避難できるよう訓練を行った。防犯訓練は、各施設の環境に応じて適切な対応ができるよう、施設内訓練又は調布警察署職員による講義指導を受けた。
進級式 お楽しみ会	全施設3月実施	1年間の集大成として、児童が年間を通して身につけたことや思い出、児童の好きな事を企画し各自が発表した。写真をスライドショーで上映し、思い出話をしながら、一人ひとりの成長を喜びお祝いした。 新型コロナウイルス感染拡大防止により、普段の育成時間内で児童と職員のみで実施した。
工作の会	全学童クラブ	季節に合わせた工作や端材を使った工作を企画し、事前に参加者を集め人数把握することで、3密にならないよう時間と場所を分けた。

(1) 1年間に実施した各学童クラブで行った主な行事は、以下のとおりである。

学童名	行事名	内 容
なないろ学童クラブ (第1・第2合同)	自慢絵コンテスト (6月)	色々なテーマの部門に自由に参加でき、最後には投票を行うコンテスト。一つひとつの個性豊かな作品が並び、子どもたちも楽しそうに鑑賞していた。
	レッツ！チャレンジ (毎月)	日々、育成時間の中で児童たちが一生懸命練習し磨いた技や、達成できしたことなどを検定形式でチャレンジをし、合格すると表彰する場を設け、児童たちが目標をもって過ごせる企画を行った。
わかば学童クラブ	お絵かき作品展 (6月)	「いきもの」を題材として、絵と塗り絵で作品を手掛けた。何枚も描く児童も沢山いたが、各1枚ずつ選定し育成室に飾った。
	正月遊び (1月)	羽子板や麻上げなど、正月遊びを楽しんだ。麻上げは工作から挑戦し、オリジナル作品が沢山でき、校庭にて飛ばし楽しんだ。
かみいしわら学童クラブ (第1・第2合同)	秋祭り (11月)	職員が1階と館庭で計5つのお店を出し、児童は3密を避けながら時間を決めてお店を回り楽しんだ。
	ミニゲーム大会 (7月)	サイレントゲーム・ボール送り・クイズを行い、普段の育成時間とは一味違う時間を過ごした。
多摩川小学校学童クラブ	ハロウィンパーティー (10月)	工作で作った仮装をしてお化け探し、お菓子釣り、お化けボーリングを楽しんだ。
	工作の会（随時）	感染防止対策を徹底して、季節に合った内容で、児童が楽しめる工作を実施した。
あおば学童クラブ	あおば作品展 (7月)	「塗り絵、はめ絵、生き物の絵、レゴ」の4部門のうち、希望する部門に1人1点ずつ作品を出品した。集まった作品は廊下に提示し、保護者に見てもらった。
	遊びの教室 (5月・6月・7月)	「ドッヂビー」「マンカラ」「けん玉」など、1年に紹介しながら、他学年児童とも遊んだ。

## エ 職員研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

(単位：人)

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	6月4日	人事考課者研修	東京かたばみ会	1	1
2	6月24日	公的機関の職員が子どもに関わる際の基礎知識	調布市児童青少年課	4	4
3	6月28日 6月29日	防火管理者研修	東京消防庁	1	2
4	6月30日	食物アレルギー動画研修	調布市児童青少年課	15	15
5	7月19日	発達が気になるお子さんに対して、所属集団ができる支援	子ども発達センター	2	2
6	9月1日	公的機関の職員が子どもに関わる際の基礎知識	調布市児童青少年課	3	3
7	9月3日・4日・7日・8日	放課後児童支援員認定資格取得研修(学童クラブ運営において必須となる「放課後児童支援員認定資格」取得に当たり、放課後児童支援員の役割等について学ぶ)	東京都福祉保健局少子社会対策部	1	4

8	9月27日・ 28日・29 日・30日	放課後児童支援員認定資格取得研修(学童クラブ運営において必須となる「放課後児童支援員認定資格」取得に当たり、放課後児童支援員の役割等について学ぶ)	東京都福祉保健局少子社会対策部	2	8
9	9月13日・ 16日	普通救命講習	東京防災救急協会	13	13
10	10月22日	発達障害の基本的な理解と、より良い対応を目指して	調布市児童青少年課	2	2
11	11月26日	児童館（子ども）の遊び	調布市児童青少年課	2	2
12	11月29日	児童虐待対応研修	児童虐待防止センター	1	1
13	12月7日	個別援助活動	調布市児童青少年課	2	2
14	1月28日	多動・衝動傾向のあるお子さんへの支援	子ども発達センター	1	1
15	3月9日	事例研究	調布市児童青少年課	3	3
16	3月17日	事例を通して様々な特性を持った児童へのアセスメントと対応を学ぶ	調布市児童青少年課	7	7

研修参加人数合計60人 延べ参加人数合計70人

## 2 放課後子供教室事業「ユーフォー」

### (1) 重点事項への取組

#### ア 安全・安心なユーフォー運営

令和3年度から新1年生の利用開始が入学式前の4月1日から可能となつたことから、各施設で児童の受け入れシミュレーションを行うなど事前準備を整え、4月1日を迎えた。例年とは異なる初めての取り組みであり、児童の安全を確保するため、各施設に職員を加配して対応に当たったが、特に混乱が生じることなく、令和3年度の運営をスタートすることができた。

また、児童の利用が増える保護者会時の対応として、職員の加配を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン等での開催に変更となつたため、当初予定していた職員の加配は行わなかつた。

ケガを未然に防ぐ取り組みでは、児童が安全にユーフォーを利用できるよう遊び等のルールについて、職員全員が共通認識を持つ機会を設けた。そのうえで児童と信頼関係を築き、プレイルームや校庭、体育館等を使用した多様な遊びができる環境づくりを行い、令和3年度は大きなケガにつながる事故等はなかつた。

緊急時の対応としては、各施設でマニュアルに基づいた地震や火災等を想定した訓練を、職員及び児童が最低1回は経験できるよう実施した。新1年生については、防災頭巾のかぶり方の訓練を年度当初に実施し、安全かつ迅速な避難方法と経路の確認を行つた。

2年に1度、調布警察署から講師を迎え、不審者対応の基礎知識を学ぶとともに、不審者侵入を想定したシミュレーション訓練を行っており、令和3年度に実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座学による訓練に変更となった。講師を迎えての訓練を実施できなかった施設のユーフォーでは、職員のみで不審者対応マニュアルの確認を行った。

#### イ 施設間の連携

7施設のユーフォーリーダーによる「ユーフォーリーダー全体会議」を6月に開催し、コロナ禍での児童の感染予防対策やプレイルームでの過ごし方等について、各施設の情報共有や意見交換を行った。

学童クラブと一体型の施設である多摩川小学校、若葉小学校及び第三小学校ユーフォーでは、合同の避難訓練や児童の工作づくり等の交流会を1回以上実施した。

#### ウ 職員の資質向上

食物アレルギー対応では、アナフィラキシー発症時と新規発症を想定した、東京慈恵会医科大学付属第三病院医師による配信映像を視聴し、エピペントレーナーを使用したシミュレーショントレーニングや東京慈恵会医科大学付属第三病院へのホットラインの訓練等を各施設1回以上行った。

配慮を要する児童等の利用については、市や子ども発達センター主催の研修に4人の職員が参加し、専門的な知識の向上に努めた。

AEDの使用方法については、全職員が基本操作を習得できるよう東京防災救急協会の協力を得て、2日間の普通救命講習会を開催し、ユーフォー職員23人が受講した。

#### エ 中期経営計画の取組推進

中期経営計画の「業務の効率化」について、ユーフォー全職員から課題等の意見聴取を行い、新たに設置したプロジェクトチームの中で、業務の効率化・標準化の構築に向けた検討を行った。

また、リーダー職の確保が課題となっていたが、市の運営委託ガイドラインが改正され、令和4年度からリーダー職を配置する必要がなくなり、メインサポートー制が導入されることとなったため、運営規程の改正及び必要な準備を行った。

### (2) 実績報告

#### ア 児童の受入状況

月別の各ユーフォーの児童受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

	緑ヶ丘	若葉	石原	第三	多摩川	飛田給	富士見台	合計
4月	816	982	526	711	715	633	677	5,060
5月	786	854	435	659	629	580	720	4,663

6月	839	967	550	737	810	719	862	5,484
7月	645	931	480	763	624	633	684	4,760
8月	209	537	208	377	256	334	239	2,160
9月	366	286	217	344	262	420	316	2,211
10月	653	439	453	473	486	563	502	3,569
11月	634	483	394	420	525	518	511	3,485
12月	608	462	540	496	485	505	549	3,645
1月	356	285	339	313	186	332	271	2,082
2月	210	205	304	254	324	328	282	1,907
3月	308	317	363	360	360	418	331	2,457
合計	6,430	6,748	4,809	5,907	5,662	5,983	5,944	41,483

## イ 児童の健康報告

### 受診ケース

昨年度2件であった受診件数は、令和3年度は3件に微増した。

ユーフォー名	月 日	学年・性別	項 目	受診先
富士見台小	6月18日	4年生男児	校庭遊びでサッカーをしている最中、ボールに触ろうとし、指を捻挫した（突き指）。	整形外科
緑ヶ丘小	6月21日	3年生男児	ジャングルジムでジャングル鬼をしていたところ、正面から棒にぶつかり前歯（永久歯）が欠けてしまった。	歯科
富士見台小	12月3日	2年生男児	校庭でサッカー中に足を滑らせ、右肩を下にして転倒。鎖骨骨折。	整形外科

## ウ 年間行事報告

一年間に実施した行事は下記の表のとおりである。

項目	内 容
工作の会・伝統遊び	工作の会は各ユーフォーで企画をし、各学期に1回以上実施した。マイノート・アイロンピースの飾り作り・折り紙・切り絵等の工作や、紙コップのけん玉・風鈴作り・ぶんぶんゴマ・パッチンかえる等、子どもたちが作って遊べる工作に取り組んだ。 また毛糸のポンポン・ミサンガ・ストラップ作り等の手芸工作や季節に合わせた工作（七夕飾り・ハロウィン・クリスマスカード・手作りクリスマスツリー・節分の鬼のお面）を企画し、子どもたちが自由な発想で作品作りに取り組み、できあがった作品を持ち帰った。1日開設する三季休業期間は、数種類の工作を準備し、参加児童が楽しく遊べるよう工夫した。 伝統的な遊びとして、けん玉を3ユーフォー、コマ回しを1ユーフォーが取り入れ、遊びを通してけん玉は検定を年間通して複数回実施し、多くの児童が上の級を目指してチャレンジした。
学童クラブとの交流会	学童クラブと同一敷地内で開設しているユーフォー（学童・ユーフォー一体型）及び学童クラブとユーフォーが隣接している地域は、プレイルームでの工作や小学校校庭・体育館でのドッヂビー等の遊びを通して交流を図った。
児童館との交流会 (出張児童館)	石原小ユーフォーと富士見児童館のドッヂビーダ大会交流を実施。他のユーフォーも計画を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
東京都専門人材活用プログラム	4ユーフォーが計画を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
避難訓練	年間2回以上、地震・火災を想定して訓練を行った。特に1学期最初の避難訓練では、1年生には防災頭巾のかぶり方の訓練を行った。避難訓練では児童も参加し、職員と一緒に校庭等に避難し身の安全を確保し、安全かつ迅速な避難方法と経路の確認

	を行った。 また、学童クラブと一体型のユーフォーでは、学童クラブと合同で避難訓練を行つた。訓練終了後、参加児童に避難時の大切な約束事をしっかりと伝えた。
不審者対応訓練	2年に1度、調布警察署防犯課の職員を講師に迎え、不審者対応の基礎知識を学ぶとともに、不審者侵入を想定したシミュレーションを、本年度は4ユーフォーが実施した。3ユーフォーは、職員のみで不審者対応マニュアル確認を実施した。
食物アレルギー自校研修	アナフィラキシー発症時と新規発症を想定し、エピペントレーナーを使用したシミュレーショントレーニングや慈恵第三病院へのホットラインの訓練等を行つた。
ユーフォーポランティアイベント	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 工 職員研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

(単位：人)

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	6月24日	公的機関の職員が子どもとかかわる際の基礎知識	調布市児童青少年課	4	4
2	7月19日	子どもの発達の多様性を理解し、適切な支援を行う	調布市児童青少年課	3	3
3	9月13日	普通救命講習	東京防災救急協会	6	6
	9月16日	普通救命講習	東京防災救急協会	17	17
4	1月28日	多動・衝動傾向にあるおこさんへの支援	調布市こども発達センター	1	1

研修参加人数31人、延べ参加人数31人

---

---

## 令和3度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告

---

発行日 令和4年6月2日

発 行 社会福祉法人東京かたばみ会

住 所 〒182-0015

東京都調布市八雲台1-5-5

T E L 042-484-8551

F A X 042-484-8411

E-mail yagumoen@oregano.ocn.ne.jp

U R L <http://www.katabamikai.jp/>

---